言海原稿

第四号

洋学文庫
文庫8
A 149
10

言海原稿　第四号

い

大正元年三月廿日綴

大槻文庫

475
418
199
(10)

△後撰「捨遺」西徳西「
「サカ」蜘蛛ノいゞヨニ人
ロアリヒダニ心ホツク
を知ニテ徑ルヨ」

△ 後撰ノ例
又ニズ者
伊勢ニ

い「蛛網」ノ（糸ノ巣カ、茅巣カ）蜘蛛ノ巣、クモノ網、イガキ、（蜘蛛ノ作ル巣）

コノ巣ヲ選ケ作ルヨカク（構）トモ 後撰ノ「帳ノ内ニ蜘ノいかきル見テ」

源氏集、文字ヲ上下ニ置キテ「イヅミトモ、イサヤ白浪ニタヌレテ下ル草ニ構ケル蜘蛛ノい」ト訓ム。

中納言敦忠

岩ノモトニテ蛛ト云フモノいヲカケタリケル、大ル蜂ノカヽリタリケルニ、いヲ繰リカケテ巻殺サムトシケル云ニ」蛛ノ個ニカヽリレル蜂ハ云ヒ」古今ノ中ノ「蜘蛛ノあみニ吹キ乱ル風ハトモ人ノ心ハイカカ頼マム」ト大君集「虚星ノ乗ヘキ宵ヨリサガニノ蜘ノいがきを見ユラム」

四、雑思

い（名）（異本又ハ一本ノ書）相合シタル書ニ文字ノ傍ニ「イ」ト記ス別ノ書ニ此ノ如クアリトモ

フ 糧ル

ヨカ」蜘蛛ノ巣、クモノ網、イガキ、（蜘蛛ノ巣）

構）トモ　後撰ノ「帳ノ内ニ蜘ノいかきハ見テケリ」

キテ「イヅミトモ、イサヤ白浪立ヤ又レテ下ル草ニ構ケル蜘蛛

ノモトヨリ蜘蛛トモノいヲカケタリケル、大ル蜂ノカリタリケルニ、いヲ

ニ」蜘ノ網ニカヽリタル蜂ハ云ヒ」古今ノ中ノ「蜘蛛

人ノ心ハイカガ頼マム」ト大君集「彦星ノ来ヘキ宵ヤ

見ユラム」

（四、雑思）

後撰ノ例ヤ是モ

又ニヽ書リシ

伊勢ノ手ナラン

後撰ノ例ヤ是モ

又ニヽ書リシ

伊勢ノ手ナラン

合ヒ丸書ニ文字ノ傍ニ「イ」ト記ス別ノ書ニ此ノ如クアリトモ

い（ヌ）「寝」寝ルコト、眠ラ閉チテ眠ルコト（寝ル、臥スコトヲヒロク云フト思ヒ）

古事記上ノ三十「股長ク伊ハ寝サムヲ」（万十五ノ二十二「妹ヲ思ヒ伊ノ寝ラエヌニ」同ノ「寝テ安ク寝ル」（笑ヲ泣クト同様）（万十三ノ十、「眠ヲ睡ズ」）

詞花ノ「夢ニ又モ逢フベキ君ナラバ寝ネヌヨリ長ク寝ル」朝寝

熟寝

い 代「価」（我ノ換ニ自種ナルヲ對稙ニ用ヰシ代ベシ）（伊賀所作ニ於ケル殿内、意休先ヲ）

ナムチ、世世、汝。古事記中（）ノ「召兄宇迦斯」「宮殿ヲ云」伊代作リ

供サル（奉ル）皇極紀ノ「備之身命」（伊賀国屋土代ノ以吾嫡）

考国名後改伊賀「吾嫡之育韓也」「嘘入鹿ヲ不許殆乎」

い（ヌ）「齋」（「齋む、清掃」）齋ムヲ意ヲアラヌ清キ、清浄ナ、

「齋垣」「齋杵」「齋庭」「齋穂」齋ト通ズ

い 接頭「息」息ノ息、沈化ナ「気噴」（本書紀、医伊弉諾息ノ内）（命）息引（鼾）

い い（ヌ）「謂」おなじ 詩経ノ笺、古訓、「胥子曰唯」

いらつ（ヌ）

いらつじよ 迷所（イロヲト、イロヲチ、悪所、迷所、迷惑、迷里、狭邪、狭斜）

いらしよ 郵去 郵便ニテ送ル手紙（郵信）（一）スグレタコト、他ニマサルコト、

いらしよう 優勝（三）スグレタル勝、抜群ナル勝利「優勝劣敗」（三）力ノ優レタル者

（他ニ勝ツコト、ソノイキオイガチ、之ニ劣リタル者ヲ負ケヲ劣敗ト云フ「優勝劣敗」）

い（足）寢（寢ル）　寢ル（ネル）コト、眠ヲ閉ヂテ眠ル（ネル）コト（寢ル（臥スコトヲヒロク五フト異ナリ）

古事記上ノ三十「股長ク伊ハ寢サムヲ」（万十五ノ三十三「妹ヲ思ヒ伊ノ寢ラエヌニ」同ノ「寢ヲ安ク寢ル」（笑ヲ泣クトイフ類）　万十三ノ六、「眠ヲ睡ズ」

詞花ノ「夢ニダニ又モ逢フベキ君ナラバ寢ラエヌ」「寢ル」朝寢

旅寢

い代（倆）（我ノ轉ニ自稱ナルヲ對稱ニ用ヰシ元ベシ）（伊賀所作ニ於ル殿内意休先ノ）

ナムチ、世世、汝。古事記、中（　）ノ「召兄弟世數「醫師ニ云」伊ガ倆

併サル（ル）ル（ル）ル（ル）皇極紀ノ「倆ノ身命」伊賀國風土記ノ以吾嬢

者國名後改伊賀「吾嬢之音韓也」噫人麻呂　不詳殆

（いらく（意）ノ誤ラレタル）

い（接頭）齋（齋む、清ら、齋ムト意ヲアラハス語、清キ、清淨ナ、

「齋垣」齋杵」齋庭、齋穗ト同じ

い（接頭）息（息ノ異、沈化ナ、「氣噴」「摂津風土記」息内（命）息引（鮮）

いい（感）「住ホホ」ニ同じ　詩傳ノ笺、古訓「胥子曰唯」

万十六ノ七「翁曰唯々」なる歟「唯、キ」

唯、諾也

い（接頭）（い（接頭）ノ誤）

いあ　感　阿吽（二）笑ノ聲ニ發スル聲　典

（三）鳥ノ鳴ク聲　典

（三）船ヲ漕ぐ言　典

いいもの　成　喇叭　軋ル音ニ云フ後　興

いいあん　醫案　醫療ノ考ヘ又考ヘヲ辻ヒタルモノ、

いい（形）好シ、又ハ好キノ　口語　エイ。「天氣ガいい」「いい物ガアル」

いろ　依遣　ヨゴラフ？

いいと（副）怡怡　ヤハラギタノシミ　ムツマジヨウニ云フ後　論語子路篇「兄弟怡怡」

いいと（副）依々　興　興

いいと　易々　ヤスヤスト容易ニ　其幸ヲ享ケセムコトに易々タリ」

いいや　否　成　否ノ反、イヤトヨ、イナトヨ、イヤサ、イイエ、

いいえ　成　いいヤノ略

いいまび　好象味　コノヨキト、悪人ノ討セラレタルナドニ云フ　俗快

いいき　好象　ヒトリヨガリ、自ラ可シトスルト、コレヲいきヨウト云フ　自讃

いいこ　好児（二）小男　褒メル後（三）猫、人ニ褒メラレム　振舞スルカ、いいこヲスルト云フ

いいこと　好事（二）好キ事ノ口語「いいことガアル」（三）「半蔵」ナル者ニ出合ヒタル者ニ　前後ニ出合ニテ喜ブ　好事

云フ後ノ好キニ抱ケテいいこと

いいかげん　如加減　（三）ナドヨクマジメ　イイカゲン、糊塗

いいとろ　好位　ヨキ位　（マロノナヒオツイ）　「車ヲいいとろニテオク」

いいつらのかな　好面皮　悪キ面皮　面白シテ面皮トスル　洒落ノ面ヲみめよレト云フ

類語ナルベシ　物乗ル名上ニ叱ル、如キカサネク、割ノワルキ者ヲ責ケタルナドニ云フ

副語、つらのない　出合ヒタル面皮ナキ云フ

いうふたん 優柔不斷 心ニ疑ヒヤカニ過ギテ決斷セズ 漢書、元帝紀「幸則文義隱忍不斷」

いうい 有意 意アルコト、所存 懷抱 思フ心 タクラミ

（一）心アルコト、意味アルコト（二）故意、「有意ノ所行」

いういん 迅印（迅霆ノ印ノ意）印 己ガ名又號ヲ用ヰズ他ノ詩句成語ナドヲ刻ツタモノ、己ガ書畫ノ落款ノ下ナドニ押ス

いうう 友于（書經君陳「惟友于兄弟」ノ語ヨリ用ヰル）兄弟ノ中ノ可愛シキコト、兄弟ナカマキキ、友愛、雄男他ノ

いうう 悠悠 ノンキナサマ

いうゆう 悠悠 心ヤカニ久シクカヾヤイテ 悠々トシテ

いうか 有價 カネアルコト、眞打ノ高キ物、「有價物件」

いうよう 優勝 競技ニ優勝シタル者ヲ賞揚シ 賞揚見 旗

いうしん 郵信 郵書ニ同ジ

いうしゅん 有心 故意 心ヲタクラミテ故意トスル

いうせん 郵船 郵便船

いうせん 遊船 遊ビニ出デル

いうけ 遊化 遊行シテ人ヲ化導スル

いうきょのせうちゅん 有脚陽春 巡廻シテ人民ニ恩澤ヲ施スト温和ノ春ノ陽ガ如シ、意ハリ 開元天寶遺事「宋璟愛民恤物朝野得美時人咸謂璟有脚陽春」言所至之處如陽春照物也

いうさいよくびる 有職雜 ものしらぬ人びる同じ

いうせいのくわ　有聲之畫　詩ノ異名、亦ヒテ畫アル意、コレニ對シテ畫ヲ無聲ノ詩トスフ

いうじん　物見出ス人　迷者、

いうひつ　（名）右筆　（右手ニ筆ヲ執ル意ナルカ　繪ヲ左筆ト稱スル例モアリトスフ）

（一）筆ヲ執テ文ヲ書クコト　明衡往来「右筆非暇追可注申」　百寮訓要抄「參議、陣ノ座ニテ物ヲヨミ、右筆ヲスル器也」　壒囊抄、二ノ三十八、右筆、フムデヲトル」（二）文學ヲ以テ仕フル輩　平家物語、一、「忠盛ニ、我」右筆ノ身ニアラズ、武門ノ家ニ生レテ」　吾妻鏡、二、治承元年有ヲ「伏見冠者藤原廣綱、初參武衡、是右筆也」（三）略シテ武家ノ職名、文書ヲ作リ書クコトヲ掌ルモノ、カキヤク、モノカキ、書記、筆吏　江戸幕府ニ於テ表祐筆奥祐筆ナドアリ　奥祐筆ト云フモノ機密ニ參ヒテ權力アリキ

右筆ノ武鑑ヲ見ル

祐筆ナドトモセリ

右文左武ノ語モアリ

ウブンサブ

庭訓往来、八月「筆墨等人、右筆奉行」

いうばう　由跋　草ノ名、古名カキツバタ、天南星ノ別種、形狀大抵相似タリ　莖高サ三三尺　葉ハ四五瓣ナレテ左右ナルハ大キク中ナルハ短小ナリ　花紫黑色ニテ鍔ノ如シ

いうせい　遊棲　居ニ同ジ

いうり　有利　利益アルコト、ヨウケアルコト、有益、

いうゑ　優　スグレタル、マサリタル、「優ト言ハ相ノ器ナリ」　優ル人ヲいうよ（副）優（一）マサリテ、アマリアリテ、ユルヤカニ、ユタカニ、「優ト言相ノ器ナリ」　優ル人ヲ容ル」（三）ヤサシ、ヒヤヤカ、タクミニ、妙ニ、功妙　源、若菜、下、三十四「イト、ヨク、物ニ響キヤヒテ、いうよナリシケン御琴ノ音カナ」（三）シトヤカ、ミヤビテ、洛チツキテ品好ク　竹取、「かぐや姫ノカタチ、いうよオハスルナリ」　源、幸未、五「取カタナク、口惜シキ際トいうよリトオボユ　バカリ、勝レタルトハ」

いうがい 有害 ソコナヒアルコト、害トナル物コト

いうがい 有蓋 車ニ屋根アルモノ

いうかう 遊行 アソビアルクコト、旅シテメグルコト、旅行 遊楽

いうかう 有効 キメアルコト、効能アルコト、

いうかく 遊客 アソビヒト、遊人、

いうき 有期 期ノ定マリアルコト 一定ノ期限アルコト

いうき 有奇 一定ノ数ノ外ニ、ハミダシアルコト、有餘

いうぎよ 遊魚 水中ニ泳ギ居ル魚

いうきん 遊金 アスビキン、使ハズニアル金錢、

いうくわん 憂患 ウレフル事、心配、心痛

いうけん 有權 權理ヲ有スト

いうげん 有限 少事ニ定ノナギリアル度無限ニ至ス

いうさく 憂國 一國ノ大事ヲ心ニカケテ憂ル

いうしゅう 幽愁 アヲゲイト ノイトニシテ、カゲロフ 沈鬱詩「幽愁 神空靡」

いうしき 有識 モノシリ、イウヒヨク 學問見識アル人。

いうしゃう 優賞 多ク褒ムルコト

いうじゃう 有情 (一) 心アルコト、ナサケアルコト (三) 有情、生物ノ感覺感情ヲ具ヘタ

いうしゅう 有衆 國民、人民。 過ぎたる出典ヲ誤

いうしゅう 有終 物事ノ終リヲ全クスル 詩經ノ一ノ「靡不有初鮮克有終」

いうしゅ 遊手 何事モスルコトナクテアルコト、「遊手徒食」

(二) 手明ノ人、(三)

(アキテ、

いうぜさん 有識ノ者

いうよく 迷弋 注釈ヲ乱フ

いうれいび 幽霊火 オニビ、アヤビ、怪談演劇ナドニ幽霊ノ出ル時候ニ燈ス火、色青シ 幽霊ノ徒ニモ長々、鬼火

いうかう 遊行 アビアルク、出歩

いうきゃく 遊客 ハルカニトホキヲ、オクカキヲ

いうとう 有情 生物ノ感覚情

いうとう 有象 [illegible]

いうしゅう 有州 [illegible]

いうしん [illegible]

いうじょ 遊女 遊女遊女ノ字ノ音淡 客ニ枕席ヲスルヲ業トスル女、ヤラヒ、ヤリ

アバヒメ、遊君トモ云ヒシニ因ラ君トモ云ヒ、女郎、コヤヤ、其他種々ノ名アリ 其上等ナル

ヲ傾城ト云フ(うれめ、あそびめヲ傾セ集ヲ) 娼妓

朝野群載 遊女ニ 朝野群載ニ出ル 河内ノ江口、摂津ノ神崎ナドノ遊女、西国ニ来ル旅船ニ着キ枕席ヲ勤ム

ルヲ上ノ郷相ヨリ下ノ郷ニ及ブマデ接ラスト云フコトナカリキト云フ(朝野群載遊女記)

古事談 三条大臣ト遊女ト物語ヲ争ヒシ事 「鬱金香爐其時又三條殿愛此女相撲」

参考 物語ニ云ヒテ、「大火焼遊君ヲ参リ斜ナラズモテナシ焼 [illegible]

吾妻鏡、十三、建久四年閏三月十日、三浦見冠者義成ヲ遊君別当ニ訴ヘ後鎌倉ニ

[illegible] 訴訟後鎌 [illegible]

[illegible] 遊女令群参列候事前義成ヲ招キ直参能者十ヲ随ヒ之申、

而召里見冠者義成向後可為遊君別当公ヲ即

被等群集 [illegible]

いうきん 游金 オヨグヒリ、ミヅトリ

いうぐ 憂虞 ウレヘオソレ、ナ 長征擊[illegible]上「悔吝者憂虞之象也」

吾妻鏡 [illegible]

いうぢょうや　遊女屋　遊女ヲ抱ヘ置ク家、京坂ニテハ揚屋ニテ其名アリ　遊女ヲ置キテ遊興ス
（東京ニテ貸ニ遊女屋ニテ遊ブ）（女郎屋、貸座敷、妓楼、青楼　娼家）

いうぢょうぐひ　遊女狂　遊女ニ別離ミテ遊ヒ耽ルコト　遊湯

いうばう　有望　後来望ミアルコト、行末タノモシキコト

いうびんぜい　郵便税

いうびんれう　郵便料

いうびんせん　郵便船

いうふ　ゆう　有夫女　夫アル女ノ姦通

いうみん　遊民　ウロビト　サスラヒビト　職業ナク空シク居ル人、徒ラニ

~~いうもん~~　遊者　遊女ノ傍ヲ見ヨ

いうもん　古文（ウブン）　古文ト異ナリ」　古文字、ひだりもじノ條ヲ見ヨ、

いうやらう　遊冶郎（ミナリ）　「遊冶ハ身形ヲ飾ルモノ」　冶ハ冶ス（ツクリナス）　冶容艶冶

（ニ）タシレ、風流ナル伊達者、李白詩「笑上酒家遊冶郎」三五五映望楊

（三）放蕩モノ、ダラクモノ、

いうけふ　遊俠　「トロダテ」

いうげん　遊説　遊世ト、説世ト、遊明、神代紀　遊事説ハ遊ブ

舒明紀　元年青「説屬心」

いうもん　遊門　胃ノ下ノ腸ノ口ノ、幽門ト云フ　食物ノ入ロヲ噤ム（ツグミ）ト云フ

源樽ニテハ、「御いかの餅」ニテタベルトテ

オトルノ下

いかの 恰悦 タノシミヨロコブ

いかのはかり 伊達羽織 背割羽織、礼

いか 五十日（五十ヲいトミル）（一）日数五十、五十日、出来計化元年（一八〇四）三月の「五十日」私記

「いか」 氏ニ「イカラ」五十山屋「イカヤ」ナドニテモ是レニテ日ヲ数ヘタンナリ

（三）此儀事ヲ児生ニテ五十日目ヲ祝フニ学ヲ用ヒテ百日目ノ祝ニ共ニ儀式アリ

ヲ餅ヲ製ス（七夜ノ餅ヲ伊七見ヨ）定礼抄「百日、モカ」拾遺（十八、雑賀「大戯

国章、孫ノいか 破る調ヒテ云ヒ」枕草子、八十三段「イツトカト待出デタル児ノいか、

もちかナドノ程ニナリタルニト」 木鏡、上「村井貴書ハ生レオヒマシ給ヒシカバ殿

上ノ女中ハ」 増鏡、上「伝ヘ聞いか（餅）ダニ国コレメサヌ、イチハヤキ御モテナシ、

（撰関白経忠）

メヅラカリ」 五十日百日ヲ合ニテ一百十日目ヲ祝フ習慣トナル 吾妻鏡 建久三年

木鏡

戊戌

「新」新説若君五百日儀也」實朝此年、月九日生、怪ニ百十
日ニ成後ノ世ノ祝モ百十日ナリ（玉かま、一）

いゝか 齋家 齋者ノトモガラ

いか 凡 いかなぎの宴

いゝか 忍 以下（二）コレヨリ下、以下、（三）日見 俳ヲ基ヲ

いかい 形こ 厳し ノ音便（いかい家）いかい上手」此水低 いかいしいかい御世話」

いかゝかと 嚴々 烈こく（乳児ノ泣聲ニ）業苑、月宴「御ゝ子いかいかと泣キ
ママ」

いゝがく 異學 儒學ノ中ニテ朱子學ニ對シテ他ノ古學、陽明學折衷學ナドノ
称、徳川幕府ノ昌平坂學問所（聖堂）ニテ官ノ朱子學ヲ奉ジタルバ寛政年中ノ學
制改革ノ時ヨリ此名起リ

森むらや製

いゝがき 齋垣 忌垣（いゝ（齋）ノ條ヲ見ヨ、神ヲ齋キ奉ル垣ノ義）

瑞籬 同ジ 玉垣、神籬、万十ノ三十九「チハヤブル神ノ伊垣ニ鈴エヌベシ」

雲異記下ノ第十（三十一）家内ニ忌ヲ離ル「齋」和名抄十二ノ四「瑞籬、美豆
加岐、以賀岐」

（吉本氏下雄略三十六、「少女ノ伊ガ久流園ヲ」）

いゝかくる（連）（いゝ（齋）隠ル 同ジ 万一ノ十三「山ノ際ニ伊隠ル（イカクル）ニ迄ニ見ツ
行カムヲ」（古段若風）

じかく（連）（いゝ（齋）隠ル 揺ク 同ジ 朝ナギニ 万八（伊加久渡リ夕潮ニ伊許藝渡リ」
三十三ノ可

いゝかくろふ（連）（いゝ（齋）隠ル 同ジ 万六ノ十二「沖津島荒磯ノ玉藻潮
干満ヲ伊隠ナバ思ヒカネテ」

いゝかい 三度政 吉野文雅ナド 謹ハナケド 意味ニ 穢キヲ其ノ誤リナルヲ決シテ改ムル、

いかがさま（副）いかが（如何）ト云フヲ丁寧ニ云フ語

いかし　形一　厳（一）オソロシカニ畏シ、イカメシ、舒明紀「厳矛山ニ伊笛之保

虫ニ皇極紀「厳雷日ニ此ニ伊柯之山」

（二）盛ンナリ、勢ヒアリ　祈年祭祝詞「八束稲ノ伊加之穂」名義抄「倹、イカシ、タケシ」

いかいコト

（三）猛シ　アラアラシ　空穂物語「四百人ノ兵トモ五ニオソロシゲニいかき者ドモ山ニ満チテ」源氏、夕顔「鬼ニ、いかきサマノ人ニ見セムト思ヒテ」

いかし・シケル（形三）厳　前條ノ（一）ニ同ジ　往紀三「以明浄心ヲ以テ」

恥ヂ入リ仕度ル事ノ重文　梦シキ事ヲ所念坐　御ス迄坐

いかる　遺憾　殘ル憾ミ、クチヲシキフ、殘念　遺恨

いかり（副）如何（いかに、いかばかり、いかやうに）設問

イカニ、イカヾトノヤウニ　一カハノ川「伊加ト伊加トアル我ガ若ニ百枝サシ生ル橘」

いかる　連体　如何ナル、下賤、ドヤクサン、トシナ、「いかる日デモ生カケタ事ハナイ」いかる人

デモ侵ノル」

いかる（副）いかるさと　ノ下賤　イツカナ「いかる御ケヲ」いかる承知セヲ」

いつかる（副）いかる（副）　ノ條ヲ見ヨ

いかゐ（連）いく（成）ノ打消　旨クいかぬ

いかゐみ　伊賀組（天正十年徳川家康織田ヲ伊賀ヲ潜行セル以動名伊賀ノ土民ヲ三河ノ一揆）

祖トスル

徳川幕府ノ同心組ノ一隊名　伊賀同心　伊賀者ノ稱アリ伊賀

陸川之変ニ附録ヲ見ル

森むらや製

いかばかり　無何許

いかめし（形一　キゲンレイ）「嚴」次條ノ條同じ、嚴ニ慈シ　史記抄（文明）ニ　ノ（三）

ヲバいかめうずルト云テ」同百六「いかめ、ゑカアリテ天子ナンドナテント思フホドニ」

（十八ノ十五「秦ノ德がいかめ、ナンド、云フ詞ヲカケル」）

いかへる　東（い、茨條）「帰ると云フ同じ　古事記下（桑ノ下）「伊賀幣理来ムゾ」

（軽太子　二十二）

いかめ子　連体（嚴し、語根）怖しき、怪言記、仏餅「仁王ト申スハ中堂宮ノ門ノ

立ツテヲルいかめ子　御伽テヲザルカ」同抜殻「いかめ子鬼ガ居ル」

いかよふ（茨）（い、茨條）直ハトモ云ヒ同じ　万ハ（三十四）「玉梓ノ道ユクアマノ河原ニ君待ト

伊往還ヒトニ茨ノ繁ク成ル」

いかんが　副（如何ほか、者便　納マリテいかがトモナル）

（十三）

いがたうめ　（伊賀專女）（うがたまの（倉稲魂）ノ延轉ナルベシ、うを、を（奥）かたまかた

ゑ（ゲ就）たび、たうび（給）ノ例、伊賀ノ專女ノ音便ナリ）

伊鬼ヲ　たうめ（狐）（條ノ條ヲ見ヨ）

（二）狐ノ異名　ヒトたうめトノミモ云フ　狐ヲ倉稲魂ト稲荷ノ神ノ如クニ崇ム東國ニテ狐ノ異名ヲ稲荷トモ云フモ是ナリ　狐

新猿集「野干坂、伊賀專之男」

（三）狐ハ人ヲ魅スト云フコトアリ　解ニテ媒ノ人ナドノ人ヨクワカル者アルヲ狐ニ

譬ヘテ云フ　源東屋ニ　雑尾ガ董大好ノタメニ媒セルト云ル詞ニ「近

ホドニ御文ナド見セヤタマヘカシ、プリハヘ、サカシラメキテ、心ヒヒヤウニ思ヒ侍ラム

今更ニいがたうめニヤトツ、マンクテナム」河海抄「乃女ハ狐ノ」岷江入楚「媒ノ

事ヲたゞめトコロ」艾澤蓋草、十五「いがたうめ、蟹也」

いかーまーまし（形三）欲生（四段活用ノ生くノ特殊形）生キマホシ、生キムコトヲ願フ、

あらまほし（例）

深根要七「カギリトテワカルル道ノカナシキニ、かまほしき命ナリケリ」

いからし・キケレ・ク（形一）四厳（イカ）厳レ男（三）ニ同ジ、猛シ、烈シ

（太イカシヒコトシ）

名義抄「甚、イカシ、ハナハダシ」字鏡抄「烈、イカラシ」惡菅坊、三「隆家ノ若クいからき

様ナル人ヲ（テ）六類ヒテ矢ヲ持テ（テ）射マヰラセタリ」

いかり・る　怒猛　怒リ猛ル、猛、手負猪ナドニ云フ　雄略紀五年ノ条、御猟ニ「嗔猪（イカリ）逐草

中暴出逐人」古事記中伊邪那岐・禊ノ条「怒猪出居其穢」

若老（七、物名）「いかりの石ヲククミ」（嗔ニ来ル）

詞花集十雑上　大江嘉言

いかる（自）いかぬ、音便、アカン、

いかるが「斑鳩」（其聲怒心ガ如キ意ニ基ク、嗔形怒ルガ如キ意ナドニモ云フ　詳ナラズ）

島名余まめ記レト云イカル、雄略紀八年二月「斑鳩、此云伊柯留倭」（斑鳩ハ）

ぜかげはと三十四ラズ）万十三ノ六「伊加流我」不審　万十三ノ三十七「鵤、以加留賀」

五名抄六ノ十五「鵤、斑鳩、伊加流賀」字鏡「鵤、伊加留賀」

いかり・ゆ　「愠湯」ヲチアゲノ湯、開聞獄温泉

豊後風土記ノ五ノ　ヘビル　写本アリ

いぐ（自）（いぐ、蕨、）刈ラレ三ニ同ジ　万十五（十三ノ三十七）「ヨチノ小菅編マナクニ伊州持ノ来ル」

カナクニ伊州持ノ来テ」

森むらや製

いぎ 異義 異ナル意義、別ノ意味

いきあかるゝ 自下二 行散 (あかるゝ見ヨ) 行キ別ル、晴蛭日記「其日暮ギヌレバ皆コガ離散

いきあかる 自四 生上 イキカヘル、ヨミカヘル、著聞集十、「一時バカリアリテ、いきあがりにけり」 (イキイツ、蘇生 水吹ナドシテ) 第十五

いきあん 息合 呼吸ノ二合

いきうま 生馬 生キテ居ル馬、人ヲダシヌキテ、スバヤク乗リ去ル、「三つ目ノ月ヲ抜クと云フ

いきがひ 生甲斐 世ニ生キテアル効能、「一ナシ」

いきかよひ 往反 行キ又帰ル、行キテ帰ルマデヲ、往復、往還 ユキキ

いきかり 自四 生ル

いきだま 魂 (ホトヽギス、魂ヲ飛ス、魂ノ名、シミ)

豐後風土記、五馬山（日田郡）

「一處之湯、其穴似井、注丈余、無知淺深、水色如紺、常

不流聞人之聲、聲慍騰、坐一丈余許、今謂慍湯是也」

（カリ）

いきあたり はったり（名）行當リバタリ当たり、

いきじびき 生字引 何事ニモ能ク通ジ居ル人ノ様

いきたけ 祇長ノ好其伴ヲ見ル

いきだし 息出 境ノ内ニ、穴、イキハラヒ、

いきせく 自四 息急 息ヅク、喘息「いきせき走ル」

いきつく 自四 息継 （二）息ヲツク、アヘグ、イキセク 喘息 古事記中ノ「鳴鳥ノ潜キ伊豆毛比」ナ孔ヲ、喘イキツク」

（三）タメイキヲツク 歎ク、歎息 万ハ三十三「畫キマ、カクノミヤ伊伎都根居ラム カクノミヤ恋アラム」ト 息衝妹 竹取「大伴ノ御主、南海ノ海ニ吹キ寄セラレタルキノリタムト思ヒ いきづき 卧タヤヘリ」

いきづまる 自四 行詰 進ム路ノ塞ク、イキヅム、狭ク苦シクナル、

いきどほる 自四 憤悒 （一）ムスボレ 思ヒ晴レズ、生

憤悒ノ思ヒ 口惜シク思フ

重ネ仕ル 「日夜憤悒無所訴言」万十九ノ十「伊伎賜保流心内ヲ思ヒ延ベ」

古鏡 セナ、「愼、伊文度保留、伊太奥宇礼不」同公六、「怖惧、意不舒泄也、伊支止保留」（三）怒ニテ、恨ミ怨ル。憤 名義抄「憤、憤、イキトホル」

いきどほろし 形ク 憤 （一）イキダヤシ、イキトホシ、息怒シ、

神ノ心ノ 「注ノ心、熱多ノ渡リニ潜ノ鳥、目ニ見エネバ異枳迺倍名之」

（三）熱悩ヤ、懶怠

古鏡 セナ、「愼憂兒、伊支止保留」

いきどほろしい 形ク 喘 （いきどほろしノ約）息セハシ、イキダハシ、

ぞほしきトテ物言ハルルモ分明ナラザリケリ」 世者陀集、七「腸胃」テ いき

いきながらふ　自下二　生存（なほ）ながらふ見る　生キテ世ニアリ、ヤ（キ）ル、イキノコル、イキノブ

いきしな（名）行時（ゆくとき）時（其時ノ事）ノ轉（たまき、ゐだき（頃）わたくいあく（經歷）ノ例）

行ク時、路行クヨリ（イキガケ）

醒睡笑（元和）五、「いきしなニ女言ハダ花ガ来しるとハ　ユンカツタリヤ」

いきる　連体　意氣（意氣ノ作ノ基）意氣ノ多ク、異、サツパリシタル、

粹ナル、滿洲「いきな姿」いきな女」　（揮ドノ元）

いきと（副）侵称（彷彿ト同じ）ホノカニ、カスカニ、　出典　ウマイ使ヒ

いきぬけ　行技　路ナドノ行キヅマリナル文　綾ナドノ、度ナキコト、コト、トホリメス

いきのさま　自ロ　生殘　生キテ殘ル世ニアリ、イキナサラブ、イキトマル　生存

いきのぶ　自上二　生延　生キラユ、ナガラフ　イキ

いきぬき　息技（二）息ヲ溜ラス穴ナド（三）息セク　苦ヲ　ホネオリ　苦ヲ　休ムこと

いきは　行端　行ク（ゆく）方「いきはの失フ」

いきはらひ　息拂　いきだしニ同じ

いきぶサツ　生活　現身女　意氣　美人ノ異稱

いきぐむ　生込む　生込む轉

いきぐ　生込ノ略

いきみ　生身　生キテアル身（死身ニ對ス）平家物語三ノ二「姫ガ来バカリニ、苦シケレ　青生島ヤ

いきのを　生緒　命ヲ、タマノヲ、ドモソハ生身ナドヲ數キナカラモ過ギレバ」

いきのを　命ヲ（副）命ヲカケテ、一方　ヲ　ヲ　ヲ

いきーみたま 【生霊】 生霊ハ生有時ニ死者ノ霊ヲ祭ル。霊祭ト。對タル 孟蘭盆

経ニ。勅使現在父母寿命百年無病無一切苦悩之患」トアル是レ七月十五

日便ノ自恣ノ日。現在ノ父母ノ寿命長久ノ祈願ヲ為ス是ヨリ起ルナリ

曾孟蘭盆会精霊祭ト混淆ス

陸暦七月ニ舟下リ生ケル父母又ハ親戚ニ物ヲ献ジ又ハ供養スル儀式其

寿命長久ナラシヲ願スルヨリ孟蘭盆会ト混ジテ生盆ト云フ陽暦ハ盆踊

ヲモ此祝賀ヲ伴ハルモノナルベシ

二水記。。。。「親王御方其外御所方、御生見玉ノ沙汰アリ」

東山殿年中行事「七月十日御所内所ヘ御参り有ニ御生み玉ヘ献御申也

女房方之御事」親長卿記、文明、年十月十日「参内若宮以下有御祝之

儀」注「いきみたまトモ云ヒ」

森むらや製

いきみたう 【異郷】 他郷、他國

いきよ 【移徙】 天子ノ或所ニ移リマスヲ、トタマフ

いきよくどう 【異曲同巧】

いきる 自四 【熟】 活用息む、苦ラ、雷ラノ例 熟クナル、ホトル、

霊異記中ノ末ノ「熟」 名義抄 熟、イキル 仏説「耳熟」

(二) イキマク、「いきり」 喧騒

いろは文庫 「若キ者コトサラ、まろ、サテサテイザキヲ」 見エ申ニ候

いきる 他四 【射切】 きる、行る 果す 達みる、思ひきる

(一) 射テ出ル 射出 仁徳紀 位前化「掉ラ真ラ、の枳羅ムト心ニ思ヘドモ」

(三) 射表ス 射徹 住元物語十ノ「御曹司ノ弓矢ノ草摺ヲ縫ヒザマニ射切

二水記 隆康より
親長ノ次ニ二水記

移書 文
三ノ三一三

（繁屋隆長卿
二水記ノ年號
ニ見テ牧長
卿ヲ以テ文ト
ス）

いきーみたま 生霊（十二月晦日ニ死者ノ霊ヲ祭ル
経ニ「願使現在父母寿命百年無病無一切
日便ノ自恣ニ現在ノ父母ノ寿命長久ニ祈ル
曾ニ盂蘭盆金精霊祭ト混ス
陸奥七月ニ舞下リ生ケル父母又ハ尊長ニ物ヲ
寿命長久ナラシヲ願スルナリ、盂蘭盆会ト混ジ
ドモ此祝賀ヲ伴ハルモノナルベシ
二水記ニ「親王御方其外御所方、御住
東山殿年中行事「七月十日御所中所ヘ御
女房方之御堂」親長卿記文明年月十
條」注「いきみたまとぞ」

ツタル」（三）射テ断チ切ル正義、十ノ心ノ「肩受障」ヲ射ガリオイテ、ヒイフツレヲ射ヒツタル」

射断

いき之「生餌」ト鳥ナドノ餌ト虫又ハ魚肉ナド用ヒルモノ　摺餌ニ対ス

六り離

拵遠今ノ別、「富山ニハ山華ノミヤリケルトヒル カタモナキ別レカナ」

いくクケキ　自四「生」次次條ノ詰ニ同ジ

一クナニハ「イツマデニ将生命ゾ」四十八ノ心ノ「天人ノカク来ンニハ何家流シ入ル」

垂仁紀ノ「不期死生」△今昔二十五ノ第ノ源信妖法人ニ「其ニ重ク

質ニ取リタル我ガ命生カムト思フ故カ法人「只命ノ惜ク候ハバ生カムトコソ思ヒ

候ヘバ」

いく、クケキ　自四「成」（行ク）ノ意　成キ浮ク意ニハ生ク

成ル、行ク、イケル、デル「ウマクいく」「勝ク」「損ガいく」「ドウモいかヌ」サウハいかナイ

いくたーリラ　生田流　外山琴ノ俗ヨリ見ル

無塗カ

いくぢなし（形ク）（意味ノ転カ）（一）ツヨナシ、ヨワナシ、イフヒナシ、ブガヒナシ　孝久記上ノ二十一

意味別ニ知識ト立ツ「くぢなし」（名詞ニ用ヒタリ）（三）取リニマリナシ、トリトメナシ　惰岩

「惰」ノ字ハ「怠」ノ古字、カタヒニ立ヒ、ものぐさ「怠情」

いくさ（名）射術（射箭ノ術、弓術、射術ノ持統紀三年七月「始習射所」同年八月「観射」）

いくさ軍（いくさびと）（兵）

いくさびと軍人（射術人、武器ハ弓矢ヲモトス）

ツハモノ、イクサビト、軍士、軍人、軍勢、兵士、いくさ、（いくさだち、兵士、いくさ、温ヌガニズ）

神武紀「諸将練士卒」崇神紀十年九月「軍卒」神武紀「戦士卒」

「槃」我猛卒、供廣雄居」雄略紀二十三年の月「軍卒五百人」

いくさだち軍（兵）弓矢ノ役ニ立ツヨトタカヒ戦争、常ニ兵ニシテ、いくさトニ立ツ

いくさびと軍人、いくさ、役立ト同意、万十三七、宮ホリク泉（井）ノ杜ニ立ル

崇神紀十年九月「登那羅山」（同軍）

「当時軍卒」いくさ出ツ

神武紀「戦士卒」

推古紀「我旅」（軍隊、部隊）

（「廣雄」いくさ、廣ヒ雄ヒ）

いくも 自四 隠（いくも、隠ル、隠ル約束トスルコトヲ、くぐる（潜）ノ例）

（いくも隠ル同意）

隠ルトスルコト、古事記（隠ル）

遊ニハ率ヒ来ル（前條ヲ見ヨ）

いそ 伊勢海岸ノ沖ノ石、カクレイハ、遊神紀「由良ノ沖ノ石ノ異

暗礁

白離 万二十九 「石見ノ海ノ奇ナル伊久里ニゾ深海松生ル」同六ノ

十六 沖津伊久利ニ奥珠多ニ潜キ出ル」神武紀「船路ニハ石ヲ、イソトス」

いそり 都雪 ニハ、ヲ

いそわざく 醫化学 醫術ニ用ヰル化学

いそくすし 醫官 醫術ノ職

いそもの 以業 以後ニ同ジ

いーちん　衣冠　束帯ノ時ノ装束ト云フ　(公卿男式ノ朝服ヲ平常参内ノ装束トシテ用ヒラル装束ヲ云フ)

(二)　衣ハ冠ト　冠(又ハ烏帽子)ト袍ト指貫ト腰帯トヨリ(束帯ノ如ク下襲表袴ノ裾、袴ノ帯ヲ用ヒズ)　烏帽子ハ漆塗ヲ用ヒル袍ハ親王三位以上四位以下位階ニ因テ色目異ナリ

いーくるま

いーくわ　醫科　醫術ニ関スル内科、外科、眼科、産科、小児科、皮膚病、精神病、生理、病理、解剖、薬剤等ノ学ヲ修ムル者

いーぞちん　依願　當人ヨリノ願ニテ依ル(上ヨリ命ニ対シテ)　「依願免官」　「依願帰郷」

いーだく(名)　(いだく)　漕ぐ　ヲ三回ジ、一百八ノ中ノ「朝ナギニ伊揺キロ」

タナギニ伊許藝ヒタリ

いざかす　(名)　車　うだつノ口語

可仮

いさーのーきみ　軍君　将軍大将　(軍神化ルノ)「将軍」名義ハ雑事ニ用イザリキ

いさーのーり　軍法　軍ニ関スル法、規律化セルモノ　「陣法博士」

いさざぼし　軍星　北斗星ノ京、祇園ニ祭ル神ヲ祭ル　(軍神)　和玉篇「魁、イクサボシ」

いくーし　郁子　蔓草、ムベラベ

いくーじ　育児　ト児ヲ育ダルコト

いくーち　副　祭ノ　イタバク、ナトホド　「器多ク」

いくひのたるひ(名)　生日足日　(物ノ生ト成ル日ノ意)　其當日ヲ賀ホキテ

多後出産用ノ産神祭ル　「八十日ノ日ノアヒダニ　今日、生日足日ニ云ヘ」

いくふ　他ニ「射」（射父ト称ス）射父を意ト云フ　かゝく・驚スルハ　ものなりなし。
ものなりなど云ふ」（行き交ふ）　（射ものなどあるべきなり）
〃　射ると云フ同じ、　仁徳紀十二年八月「集群臣及百寮、令射高殿所
献之鍬形的」孝徳紀三年正月「射於朝庭」（左訓、イクヒス）
いくみだけ　△「篠竹、隠竹ノ約轉ト云ヒ（隈笹類）かくれ、たけ（屋ノ例）
葉ノ細キリタル竹　叢竹　古事記下（雄略）ノ三十一「山ノ峽ニ云ニ本（樹）ニ
ハ伊久美陀気生ヒ」継体紀七年九月「泊瀬川ニ流レキル竹ノ以矩美
娜開節竹」　（たゞ篠竹ノ意）　（たゞ篠竹ノ例）
△（笹ノ意ノ名詞形、隠竹ノ意、隈笹類）　隈樣

いけ（「魚」）池　生ク（下二段）、條ヲ見ヨ、
いけ　接頭（餌計ノ異轉カ、よい（生）ノいいと云ヒ長崎ニテ餌計ノ分量ヲいけえし
さいと云フ）　俗語
（冨ノ）　冨ノテ下ノ語ノ意ヲ強メテ云フ　冨ノ
いけ駿ライ」いけ耶」いけ年ヲシテ」
いけさい　生鮮　生ケテ宜ノ鮮、新ノ意、「水槽ニ浮キテ鮪振ルいけさいノ命
待ツ間ニセハシナノ世ヤ」
いけさい　他ニ　埋ム　他ニ埋ケル、掘立ノ柱ナドニ云フ
いけぞもの（名）（不成者ノ義、いけ（成）ノ條ヲ見ヨ）　（墨シテいけぞもの）
いけどし　（俗）年長ケタル、年ニ同ジ又所作業スルヲ居リ立ツ後、「いけどしヲシテ戯ケル」
（いけ（接頭）條ヲ見ヨ）

いけあい（形）いき（成）ノ條ヲ見ヨ

いけぬ（動）いき（成）ノ條ヲ見ヨ

いけすがら（名）生ケテオキナガラ、生キタルマヽ、宇治拾遺、四「惜ヲいけすがらオロシケル」

いけび　埋火　灰中ニ埋ミタル炭火、ウヅミビ、清原伐ノ條或ハ口ニ香ヲ焚ク折ノ火ヲ供ス聽ヲ生火ノ意ト云フ主殿司

いける　ケルケレケ　自下一　（いけだ者）　（成）ハ成キ得ル ノ約　成ル　成モ得ルデキル　「ヨクいける」　（こゝろ安キル）　（ヨクいける）

お清ニ「いけヌ」「いけン」「いけイ」ノ活用ヲ霜雪ヲ、真似ルナド内藤

いける　他下一　（挿）（ハ生ケ　蓋ヲ被ル）　生花ヲ瓶ニ挿ム

（一）花枝ヲ瓶ニ挿ム　（枝ヲ）　「牡丹ヲ花瓶ニいける」

（三）炉ニテ　埋ミ火ニ　炭ヲ成ス　「中ヲいける」　「埋ミ火」

（三）土中ニ植ユ立ツ、植ル　「植ヲ鉢ニいける」　「柱ヲ地ニいける」

いさゝじ（連）（い薄ク）　ヤさぬ（抵）ノ條ヲ見ヨ

いさぢ（名）（意気地ノ略）　悪ビヲ張ツテネチケル心　執拗

いざん　遺言　ヨワさん言ビ

いさん　遺恨（一）ノコリテ忘レキラヌコト、遺憾、残念

（三）長ク心ニ仇トシテ思フ、怨恨　「恥カシメラレタルヲ遺恨ニ思フ」

一カ月ハ
淳子ドモ

(三)大事アル時
「いざト言ハバ
真先ニ出デム」
「いざ鎌倉」
(其侍ノ事)

(二)

いざ感 淳子 人ヲ誘フ時又ハ心ノ進ム時ニ発スル語、イデ、サア、ドリヤ

独功化語説ニ「伊弉冉尊ハナ我」古事記中ノ「伊奢合ヒ」

霊異記中ノ「率イサ」古今ニ春ノ「いざ桜我モ散リナム」トサカリアリナバ

人ニ憂目見エナム」(十七、雑上)「鏡山いざ立寄リテ見テシカナム」

いさう 異相 尋常ニ異ナル相人相、異相ノ三十二ノ一「生ヲ異相ト

いざーれ 「れ(已)」ノ條ヲ見ヨ

いさーんさ(名)(行ク末ノ)(ヤッサモッサモ遣ルカタ展ケ)事ノ糾ハレル状

(俗ニ)(双方ノ意ノ縺レ)(結ビテ解ケズ)特ニテ、ざざ、ざくざくトモ

いざーちぐ(名) いさんさ ノ條ヲ見ヨ

紛糾 葛藤

いさ 第一 第ム、いさ見、いさ(已)

いささーかみ（副）（細小ニ副詞ノ接尾語ノ転ジタルモノ）わづかに、ささやかなト同趣ナリ　假初ニ、軽ク見ルイサメニ、苟且

万葉ノ二十四、伊佐左可乎思ヒテ来シテ多枯ノ浦ニ咲ケル藤見テ一夜経ヌベシ」（朗詠集「ささめな思ヒシキノフタヨノ浦ニ咲ケル藤浪一夜ヘヌベシ）

いささか（副）（少）（少條ノ転ノ下略）（一）カリソメニ、ちょっと、

指遣ニ、裏傷ニ、いささかに思ヒテ述ブトミフ歌ヲ」

いささか（副）（少條ノ転ノ下略）（二）スコシバカリ、僅ニ、少シ、竹取「御葉云々いささか黄メタマヒテ」

いささーせし　鶴ノ奥ノ條ヲ見ヨ

（さまらげんフ　さげんトミフカガヘ）

いざーさらば　イデ然ラバ、サアソレナラバ、後古今ノ、雑上「いざさらば渡リテゆムホトトギス我モ憂キ世ニ泣カヌ日ハナシ」異本「いざさらば、後拾遺ノ、雑下「住ミウビヌ、いざさらば我モ隠レナム世ハ憂キモノゾ山ノ端ノ月」

いざーせ　為よりも古格ニ、命令形ニ、誘ヒ進ム、いざけ、意ヨリ

一方十四ノ二十三「麻苧ヲ苧笥ニ績ミ績ミストモ明日キセザメヤ伊射西小弟ニ」　続紀二十、一の「此事ヲ佐世ト誘フニ依リテ伊佐西ムト事ハ許リテ」

いざ、させたまへ、前條ノ後ノ、いざ為させたまへト云フベキ略ナリ、いざ

たまへ、意、

空穂、初秋「ナホ、ハヤ、スコシ由アラム御衣奉リ、見トコロアラム御容見出デ、
いざせたまへ」宇治拾遺、一「いざせたまへ、湯浴ニ、大夫殿」
いざたまへ　前條ヲ更ニ畧シタルナリ、空穂、後薩「母ノ御許ニ行キテ
ヒフヤウ、外ニいざたまへ、麻呂ガマカル所ヘ」浮塵子、初秋、雑「いざたま
へ、陳殿、大津ノ西ノ浦ヘ、雑魚ヲ掬キニ」
いざ！かし　いざたまへかしノ畧、源、若紫「いざかし、寝ブタキニト
宣ヘバ」

森むつや製

~~續伝三十ノ一「此事、伊佐西ト誘フニ依リテ」伊佐西ト事ハ詳リテ」~~

~~いざたまへ　前條ノ畧、空穂、後薩「母ノ御許ニ行キテ五フヤウ、外ニいざ~~
~~たまへ、麻呂ガマカル所ヘ」浮塵子、初秋、雑「いざたまへ陳殿、大津ノ西ノ浦ヘ

雜魚ナキニ」

いざ、さらば（名）幸ノ條ヲ見ヨ

いざさば（名）幸ノ條見ヨ

いざ、させたまへ（名）幸ノ條ヲ見ヨ

いざ、せ（名）幸ノ條ヲ見ヨ

いざ、たまへ（名）幸ノ條ヲ見ヨ

いざ、かし（名）幸ノ條ヲ見ヨ

いさ（名）鯨ノ一名、土佐ノ海国屋土記ニ鯨伏狗、俗鯨者河伯ニ（仏説律師萬葉集抄三）萬葉集ノ枕詞ニ鯨魚取海辺ヲ書ケルハ富士ナレド

いさ、ち（鯨魚）鯨ノ語ニ因レル其條ヲ見ヨ

源者集「いさかし、未タキミト宣ヘハ」

万十ノ三十二「イサヤカハ不知世ノ人ハ不知トヤ聞コヤ吾ハ名告ラスナ」

いさ（副）「不知」（清音ナリ知ラズ云フ語ニ副フ副詞）

身モ云フ因ラ不知ラ、ナカ、いさ ニ用ヰル ニ云ヒ、語原ハさあ其事ヨソレ知ラスナド云フ意ニ感動ナラムモ知ルベカラズ或ハ否ナ直ストモ云フアイカ、ナラムカ（言別レテハいさトハニ云ヒテ知ラズト云フ限リテ副フ副詞其意ハいかがあらむかどうあるやらナリ知ラズ）

異ヲ成ス

異ヲ成ス ヒ云フ 古今一春上「人ハいさ心モ知ラズ古里ハ花ソ昔ノ香ニ匂ヒケル」

枕草子、七「いさ知ラズ、サラバ十頼ヤ」神功紀ノ「有無之不知」

世俗諺集「知ラズ」

「外ハいさ、訪ヒ来ル人モ跡絶エテ」

いさ、ちゝ、さ、ゝ

いさトモ云ハヤ 知ラズトモ知ラスヤ、後撰ノ雜四「世ノ中ハさ、さや国ニ着ハ秋ノ秋ノ添フコ、ケコソスレ」

いさとよ

いさと 知ラズトヨ、否々（イヤイヤ）「平家」二、「入道、いさとよ、いハ法皇ハ、山攻こんべ（西光ガ云）キ御結構トコソ聞ケ

いさとよ　いさや　不知（イサ）ノ條ノ見ヨ

いさとよ　不知（イサ）ノ條ヨリ見ヨ

いさよふ　自四　躊躇（不知ノ活用否ノ意）よふ（ミヲヤラムカ）、ただよふ（漂蕩）もたよふ（蜆蛇）

ノよふ（同ジク揺キ延ベラル意）進（コムトシテ進マズ、クユタフ、タメラフ、ヤスラフ、

万三四八「山ノ間ニ伊佐夜歴雲（妹ニモアラズ）六帖三「君ヲ（さよふ）浪ノヨルベシラズモ」

霊異記下ノ末ノ「躊躇、多ク進ム事ヲ恨ム」（武士ハ十字路ノアジロ木ニ）

いさき　「魴（細小ニシテ赤キ魚）」氷魚ノ名、天治字鏡ノ三「魴、比米、伊佐佐

古」和名抄十九ノ四「魴、氷魚」出雲国ニテ「いささひを」

字鏡「魴イサヽメ」

森むらや製

いさ（極駅）ノ條ヲ見ヨ

いざかまくら（名）「淳鏡倉」（いざ（感）ノ條ヲ見ヨ）大東起リ名時ト意ニ合フ

語、謹曲、鉢木ニ佐野源左衛門行綱ノ僧ニ「只今ニテモアレ鎌倉ニ御大事アラバ

五ヤ一番ニ馳セ参ジ……」

いさむ　ムルムレメ　他下二　「材」（言進ム）ノ約異カ（言進ふ、いさかふ（詩）ノ例）勇進ム、いさ

む（同）ト同類」（一）抑（止ム）、戒ム、禁制ス。神代紀下ノ二十九「海神制曰汝口女（魚）

往今以往不得復天孫」私記「制、以左女天」孝徳紀ノ「禁放鷹於宮戸境」

万九ノ二十三「此山ヲ欲ク神ノ背ヨリ不禁行事ゾ」伊勢物語ノ「来レバ来テモ

見ヨカシ、チハヤブル神ノいさむるノ道ナラナクニ」

（二）戒ム意ヨリ轉ジテ、人ニ其非ヲ告ゲテ改メシム意ニ見ルカ　諫（ナム、諫ス、忠告ス、）

諫む

三 轉ジテ、責ム。壁添塩壺折ノ十二、廿九「愛ニ小角其功ノ遅キ事ヲ怒リテ責之。山神謂テ云。云云。則小角一言主ヲ諫ムルニ、神是ヲ不肯」（少神）

（後神者）

増言用紙

ヲ、ダス、イマシム」

三 諫言、意見、

めニ若ヲ表ヒアラン

ヲ注アリ

陰本、假城酒呑童子（ノ）二「渉徒並ヲいさめムタ」

いさめる 禁ジ諫む、口語

森むらや製

いさめ（副）（細小間ノ姉カ）カリ、メニ、イサカニ、ツイチヨツト 孝雨ニ

万七ノ三十四「真木柱作ル杣人伊佐左目丹假賀ノタヨト作リケメヤモ」

万十ノ三十五「孝雨今モ見ガ欲シ秋萩ノ撥ヒテアラム妹ガ注ヲ」

古今ニ物名「いさめ 時待ツ間ニゾ日ハ経ヌル」

いさつ 自上二 泣ク、古言、強ク泣ク、泣入ル

神代紀上ノ九「常ニ哭泣為行」書紀上ノ十七「泣伊佐知田伎」雄略紀ニハ

「不質泣重哀泣」欽明紀ニハ「大臣涕泣」倭玉篇「泣、イサツ、ナク」

古事紀上ノ十七「戦伊佐知流」トアル、知ヲ都ノ音ニ用ヰタルナリ 欽明紀ニハ

馬奴苦都改名谷智「儀式三、大嘗会「知岐里綿」トアル、調黒綿ナ

（頓宗漫筆の）百五十

天治字鏡三ノ十三「諫、止人非ヲ也、伊佐牟」名義抄「諫イサム、ヲシフ、ダス、イマシム」

(三)責ム、塵添壒嚢抄 カード

いさめ 名 禁(二)戒メ、禁到、天武紀下ノ二「禁式九十二條」(三)諫言、意見、

「諫ヲ諫ル」

いさめ 名 寢貫ハい(寢)條ヲ見ヨ 寢貫ニ同じ 六帖五「いさめに君ヲ乗ヒアカシ

ツル」

いさめのつづみ 諫鼓 文選、基條ヲ見ヨ

いさむ(ムル)メ 他下二 慰(勇ましめ他ヲ奮たゝせ)慰ル、「神いさめ」トモヲ使アリ

陰本、倭城酒香奠ヲ(一)二「酒徒ヲいさめムタメ」

いさめる 禁ル、諫む、口語

いさゝめ(副)(細間、ヰサカ)カリソメニ、イサカニ、ツイチヨット 淳和ニ、

万七ノ三二四「真木柱作ル杜人伊佐左目丹 假宿ノタメト作リケメヤモ」

万十ノ五十五「淳和今モ見ガ欲シ秋萩ノ撓ヒテアラム 妹ガ咲ヲ」

古今ニ物名「いさめ 時待間ニゾ日ハ経ヌル」

いさつ 自上二 泣 泣ク、古言、強ク泣ク、泣入ル

神代紀上ノ九「常ハ哭泣 為行」書紀上ノ十七「泣伊佐知 枯 雄略紀ニ

「不覺涕垂哀泣」欽明紀ニ「大夜涕泣」倭玉篇「泣、イサツ、ナク」

古事紀上ノ十七「戦伊佐知流」トアル、知ヲ都ノ音ニ用ヰタルナリ 欽明紀ニ

馬奴苦都 改名谷智」儀式三、大嘗会「知岐里、綿」トアル、調ノ黒、綿ナリ

(頑蒙漫筆の)

（勇魚ノ條ヲ見ヨ）

いさなどり（枕）異国儀等利（イクリ）（磯魚採ノ轉、前條ノ語ヨリ鯨魚ヲ異国ニ同意）

上書ケルハ当ナリ（ミナ）（鯨ノ條見ヨ）（枕詞ヒトヒ見ヨ）鯨ノ漬又湖ニ居ル（キヨ）

海湖漬ノ枕詞　允恭紀十四年三月「異国儀等利海ノ漬苔ノ」万二ノ

二十四「鯨魚取淡海ノ海ノ」同ノ十五

「鯨魚取漬辺ヲ漕ミ」同十七ノ七「伊佐奥取（ヒサキ）ノ奈太ヲ今日見ツルカモ」

比治奇

いさら（磯辺）（細小）（細小ノ約カ、さざ波、さざら波アリラノ條ヲ見ヨ）

イササカナル、チヒサキ「いさら井」「いさら波」「さら水」「さらい」

（スコシノ）

いさらみづ　漬水（ミヅ）（一）イササカナル水　安閑紀（ヒトヒ）元年七月「此田者天皇難（ナリ）漑水漬易

「浸」（三）ニハタツミ、皇極紀（ヒトヒ）四年六月「是日雨下漬水溢庭」

森むらや製

いさらーをがは　細小川（いさら（接頭）ヲ見ヨ）イササカナル小川、細ノキ流レ

六帖ノ「我ガ門ノいさら小川ノ堰水ノ（春）堰ノ水ノ」

いさん　遺産　死後ノ遺ル財産

いさう　醫草（ヨモギ、ヤイクサ）

いさ・ふ　磯魚（イサナ）ノ如ク、ささやく（密語）「磯ノ」ノ項

草根集（長禄、徽書記）六「淺瀬行クいさる取ルヤ夢ニサヘ汀ノ波ノ

眠リ立テルハ」同「種ヲ蒔ケル「ヤチムラテ鶏ノ鳴ル川ノ水陰ニオノレ

ザシルいさ赤白蓼」中原集「いさる採レ夏ノ小川ノ柳蔭イザヤ涼ナム

ニアリテス・ヤム」

いざーわ 感「幸和」(いざ)(幸)ノ條ヲ見ヨ」いざーやトモ同じ誘フニ萍タ
聲。神武紀ノ「鳥到其上而鳴之曰天神子召沙怡奘過怡
奘過」ノ十三ノ三十四「愛示十羽ノ松葉、鶯モ幸和出テ見ム」
いさめる 諫むノ口語

△宮れ抜、籬、イミマテリ器不苦籬異せ

いしむ 自四「砂瓶」瓮、甕、クボム、陶器ナドイウツハニモフ (器モノ皆)
名義抄「穴法、イシヤ、クボム」「籬、イシヤ、ユカム、ヒスム」塙本抄「不苦不砂」
いしーま 「竹瓶」砂瓶ミカヘテユガミ、ヒスミ、クボミ、陶器ナドニモフ
名義抄「穴法、イシヤ、竹瓶イシヤ」「籬吸間ノ竹カ、籬、麦轉カ、志ハま」(無言)トモフ意アリ
いしーまくら 石枕 石ヲ枕トスル。麦ノ意カ。鬼姿ノ花ノ宿ニ 石ヲ枕トスル。トリナド多ク使フ意アリ
いしみ(名) 蓋(石持ノ約ミアラカ 蓋モ持ノ義ナルベシ)
器ノ名、ふたもの、ノ数 名義抄「蓋、ミ」
未未、一、若菜「心サシ深キ深谷ニ樹ミタメテいしみユスリテ洗フ根芹カ」
いしむら 「石垣」石造ノ蔵、宮殿、地蔵ノ祠、イシムロ」 (墳墓ナルニモフ)

史記、仲尼弟子傳「已右三十五人」

いとこ　懇親　親しキ族　血族　出典

いとこ　夷人　エビス、未開国人。

いとこ　異状　常ニ異ルヲサマ、異状無之候

いとこ　(名)　以上　(イ)以来以後ト云ヒ、過ル日ヨリ前。

(二)　コレヨリ上　コレヨリ前。

(三)　物ノ目録　(書状文ノ末ニ記ス語、下文ノ終ニ以下ト記スニ對シテ)

以上ノ意ナルヲ省略スル語ナレ共、唯結ノ意ヲ表ス語トナル

(二)　徳川幕府ニテ臣下ノ官階級ノ稱　御目見以上ノ者ヨリ目見候ヲ見ル

(三)　(額数皆集セル、以上義朝一人。)

いとこ　接　以上　然ル上ハ、平治物語

(一ノ第二條)

罷成候(バ云ヒ)　一説ニ以上唯接置セリ」論後述而為「自行来脩」

以上　吾未嘗無誨焉」

いとこ　異常　常ニ異ルヲ、常並ニ異ナル、非常。

いとこ　衣裳　たんす　衣裳箱　たんすノ條ヲ見ヨ

いとこ　衣裳箱　花見ノ山ノ時　(花見ト称シテ桜ノ下ニ集ル人ノ)　(元祿時代行ハレタル)

西鶴諸国咄(貞享)　「衣裳まくノ内ニ小姓ヲ

ジリ女中姿」　塵清河答「女子、花ノ時ハ、色々ノ衣ヲ打上ニカケツラネ外ノ隅ニト

ナレコレヲ衣裳まくト名付ケタル」(嬉遊笑覽ヒ)

いとこ　衣裳うち　衣類　(コレ)　衣類ノ上ニ用ル

いとこ　移出　輸出　(イ)ノ條ヲ見ヨ

いとこ　異志　異本ニ同ジ

いとこ　異本　同ジ書籍ニ文字ノ多少異ナルトコロアルモノ、異志、

いしよう（名）稱唯（文字ヲ倒読スベキ謎倒リ漢文ニ稱唯ト書キテ稱唯ト訓ム）

ナレバ稱唯ト音読モモヒカノマ、「いしよう」ト云フルベシ

謹ミテ應フルコト、おお（稱唯）俳諧ニ、い（唯）ノ條ヲ見ヨ

いしよく　移植

いしよくぢう　衣食住　衣服ト食物ト住居ト、人ノ生活ノ三要件ナリ

いしゐ　石井　（織ノ堅ミヲモ名ナルベシ）

いしやうせきだ　石剣席駄　（席駄ノ雅ニ錦片ヲ以テ名ケタル）他ノ世界ノ上ヲ「大浦せきだ」トヤラ

生枝ト云ヒテアノ人ノ尻ニ名ガ付テキタレバソレタケノ威勢ヲ云フ」

いしむすめ　石娘　（ウマズメ、カラカンナ）

いしべーまんきち　石新金吉　（堅キ物見ル名ヲ付ケタリ）物堅キ人、謹厳ナ人ヲ云フ俗

「石新金吉　鐵兜」

森むらや製

いし（名）倚子　コレカケ、今禪家ノ用語ニ因リテ椅子トスフ

本朝式「紫宸殿黒柿倚子」ト名ヅク、高サ七、坐所具「倚子」名義ハ倚

子イシ」天德歌合記「後涼殿ノ濡殿ニ當テ置ニ、いしノ御座裝ヒテオハ」ス」

源桐壺ニ云ハ「オ、シマス殿東ノ廂東向ニ、いし立テ」

いし（名）「椎」（初シ約ト云形容詞ノ終止形ヲ名詞ニ用ヰ名語トオボエ云ヒシ（生絹）

あかし（淺）ノ類）若キ、イトケナキ、幼稚、樹代紀上ノ「古國稚地

稚土産（古訓）日決「稚宇比志」

いしーざき　「石合器」（石器　磁製ノ合器ノ意カ）茶碗ニ同ジ

いしーざさへ　「石底」（因ニテ　破ル意）足袋ノ底ニ用ヰル厚キ綿布、織底ノ

俗ニ云ヒ「石底ノ足袋」

いしゝキ（形二）「美」（前條ノ語ノ轉）初ニヤ物ノ愛ルヨリ移リ変レル後世ノ意

青ヲうひかつたりなまエ　キ　いみし　塩（ガミキ）　或　吉し美し　然ニテ活用ヲ変ジタル

（二）美シ（イミジ）好マシ、美事ナリ　空穂、吹上、下ノ巻「いしき盃ナドイトメツラシクコトナリ」

青淵集、四天王寺ニ詣テ、「立居ケルアトヲ見ルコソカナシケレいしやノ世ニ（全）ヘラマシカバ」　幸若、文覺「流罪セラレ候ハバいしかりナム」

（三）ウラミナリ、上モナリ、歌ノ音ノ美（ヨリ）しき

今昔、九「何ニシテキいしかりケル物ノ上手カナト皆人コレヲ信ズメケル」

中務内侍日記（弘安）「此馬ハかき驚キヤシバヘラムト申セバいしくも相シタリケル」

（三）イソシ　ケナケナリ　珍妙ナリ、奇特ナリ、平治ノ第五條「波いしくも参リタリ」義經記

いのの「いしうも申シタルモノカナ」

（義經記）

（四）旨シ　味好シ、太平記「オイシ、（全第三條）旨ク味ノヨキヲヨメタ」いしかりしトキハ夢窓ニクラハレテ（周滿）スイバカリゾサラニ殘ケル」

永仁五年正月二日柱歌合判詞「花片ハいしゲナル」

いゝし　意思　オモヒ、コヽロモチ、カンガヘ、「意思疏通ス」

いゝし（名）「以次」（次第）次ギナルコト、次ギ（順番）、以次以次ニモ判詞ニ用ヰル

西宮記、背五、叙位議、裏書「著議所、時、一大臣入自南、以次大臣以下入自東門」　二水記、正月廿日條「大臣之外取南之人無之歟、已次之大臣只置許歟」　槽葉記「いゝしノ御使モ群參スレバ云」　北山殿行幸記、八「常ノ御所、夜ノ御殿ノ御衣、いゝしノ御設ケモイカメシキ事ドモ云」

いゝし（副）「以次以次」（以次ノ條ヲ見ヨ）次々ニ、順々ニ、ツギツギニ、次第次第ニ、

春日社參記、新院ノ御幸、いゝし宣旨殿ヘアリケカハ」　北殿行幸記、十二

次ニ関白、いしいし公卿次第ニ着座ス」御湯殿上記、永禄五年五月十
六日「今日ハ御祈禱ドキ有リ女中ノ御長柄御杯参リテ皆々御いしいしと
御祝アリ」 お目ニ物
いしいし（形）（嚴重）ノ義、美シ（四）ヲ見ヨ」園子ノ女房詞、
寒い入道筆記（愛長）「花ヨリモ園子ノ京トナリニケリ今日モいしいし明日モいし
いし」
いしうをげい 石田藝（能ノ何物ヲモ張レドモ細末ナニヲ意ナル（シ上ニテ）
人ニ藝能 ヒキウスケイ 蛙出オ。
杜歌咄（寛文、浅井了意）「何ニ学テモ心得侍レド世、石田藝ニナリツヽ身モ成リ立
タズ」

いしき（形）（稚）ノ義
いしき（形）いし（美）ヲ見ヨ
いしく（形）いし（美）ヲ見ヨ
いしう（形）いし（美）ヲ見ヨ
いしたけ（名）石竹（文学読、横イシノタケ、永久四年白首夏、明雅妻、いしたけ
ケノ花咲ク頃ニイカニシテ竹ノ離ニ結ヒマシ」
いしく 自四 及（い、義語）及ク上ニ合ス、追ヒ及ブオヨブ
仁徳紀ノ「山背ニ伊訶鶏鳥山（人名）伊訶鶏之鶏吾ガ思フ妻ニ伊訶枳
會ムカモ」 雄略紀ノ「伊志州ズアラズ甲斐ノ黒駒」

いじかる　自四「癖」（かじる、かしかむに同語）

癖ケ三日ジ　草阪ニテ癖ケ歩ムヲ「ビカリ股」ト云フ

東海道名所記（萬治）土山ヨリ水口「足ノ多ビレタリ」ト云シカラ　まだ　ナリテ

衙ヲ直ル」

いし・おとし　「石落」城壁ノ櫓ニ設ケテ石ヲ落シ攻寄ル敵ヲ防ク所、櫓ノ床ヲ

壁ヨリ外ヘ造リ出シ床ヲ揚板ニシテ落ス

いし・あだな　石頭　頑固ナモノ

いじける　自下一　萎縮（かじる、かしかむヨリ移ル）

弱リ縮ム、カジケル　スクム　ヨワッテ寒ク堪ヘ又ニ云フ

いしーつぼ　石壺（石壺、中庭義、「根壺、壺前義」壺ヨリ）

石ヲ敷キ並ベタル庭、伊勢神宮ニハ祭儀ノ時勅使神官ノ拜所トスル

トコロ、江家次第、十二、伊勢公卿勅使「次使進跪石壺」「直筋」新儀

撰ビ、神祇「掃ヒテハツリいしつぼ踏ミナラシ君ヲソ祈ル内ノ宮人」（内人ヨリ）

五百番歌合、三、寿永三年二月廿七日、「石壺風ヲ巨細ニ凄、畢時乱脚

又参ル者」

いしーのひ　「石火」燧石燈籠ニ新出ニシタル火、瞬間ニ消エヤスク、ハカナキコトニ云フ「電光石

火」併足名歌「伊加豆知（雷）ノ光ノ如キ是レノ身ノ草根集（長禄）「憂キ世ノ

カハリヤスキ石の火ノ光ノ間サヘナゾノドケキ」夫木、十九「石の火ヲ山ヲ寄ヒテ世ノ中ノ

営ヤナゾサラ是ヒ知ルカナ」

いし・ばち　石鉢　大ナル石ヲ鉢ノ形ニ造リ縁先手洗水ノ用ニ遣ヘナドニ用ヒタリ
真前ニ水ヲ注ギ入レ新ヲ[illegible]ノ手水鉢ニ用ヒルモノ（ナド）

いしはらがに　石原船　あしはらがにに同じ

いし　遺矢　（玉篇「戾奨矢」同、俗又作「屎」）　大小便ヲ云フ

いし・ひじり　石聖　志摩ノ聖国ナル僧、砂石集、一、上「東大寺ノ石ひじり経住」

いしびゞだい　石火矢基　基場、砲基

いし・ぶね　石舩　石材ヲ運搬スル一種ノ船ヲ云フ

いし・べい　石塀　切石ヲ積ミテ造レル垣（枝塀・煉塀ナドニ対ス）石牆

いし・ま　石間　石ト石トノアヒダ　「十五夜ノ月、西ヨリいしまノ白波ニ入リ」

いし　移徙　ヤウツリ、ワタマシ、ヒキヨセ、轉宅

せ

いし・なぶり　石投取（いしなげ・ぶり・玉取・鈴取ナド同じ）

女子遊戯名、繪ニ女房二人向ヒ居、一人ノ手ノ甲ニ石二ツ載セ、下ニ石
四ツ五ツ散リタル所ヲ図セリ　後ノ女児ノスル手玉ヨリ畧ニテいしなぶり又いしなぶ
り云フ　和名抄……「手玉、擲石」

拾遺十八、雑賀、東宮ノ石なぶりノ石ニたとへバ三十一ヨ包ミテ一ツニヒト
文字ヲ書キテ参ラセン」　「世ロムサバ拾ヒモメムサザレ石ノ数ヲ皆取ル齢哉
「ぜゾ」　金葉集、雜部、「前齋宮五々いしなぶりノ石アハセト云ヘルコトヲ
ロサセタマヒケンに」　榮花、月宴「御前ニ召シ出デテ、碁、双六、ものゝ合ハセ、いしなぶりヲセ
サセテ御覽ジ」　玄々集（飛因）いしなぶりノ石ヲ宮ニ奉ル「スベラギノミリヘノ麻
（後ヒ）ノ石ゾコレ、思フ心アリ　零マエルマデ取」　ののの節用言海「投石イシナブリ」

山家集 この「石なぎの玉の落チまんホトナキニ過グル月日カハリヤハスル」

○の節用言字引「櫛石イシナゴ」

いしなぎり 石投取 いしなぎうの條ヲ見ヨ

いしなぎ 石投ヲ いしなぎうの條ヲ見ヨ

〔さう（諸）の條ヲ見ヨ〕

いせーさう 「伊勢譜」伊勢大神宮ノ太太譜、

梅宮筆記上ニ、吉田鈴鹿家記ヲ引キテ、永享二年八月「来廿日伊勢譜私所ニテ仕候」大筑波集（大永）「結解ヲスル伊勢からの錢」

いせーさじき 「伊勢之食」伊勢ノ神宮ノ辺ニ居テ参宮ノ者ニ錢ヲ乞フ乞食ノ稱

いせーざくみ 「伊勢暦」伊勢神宮ノ齋主藤波家ヲ毎年朝廷ニ奏シ土御門家ノ暦本ヲ申請ケテ伊勢ノ宇治ニテ開版製本セシ暦、御師、神宮ノ御祓箱ニ添ヘテ全國ニ配賦シタリキ

いせーさんぐう 「伊勢參宮」伊勢ノ大神宮ニ參詣スルヲ、イセマヰリ、「謡曲、須磨浦氏

「イマダ伊勢大神宮ヘ參ラズ候ヲ程ニ山度思立チ伊勢參宮シ志シニテ候」

いせーじま 「伊勢縞」伊勢國ノ津ヨリ産出スル縞ノ織布、

いせ(ヱ)俳(へえせ(似非)ノ特ナル(レ)物ニタガヒムクヤウナル意ヲ表ス)

枕草子中「サヤウニ、セノ物語ナリヤトテ見レバ」永久四年百首、いせナル俳事(雑)

ゾトモ思ハマシ」大和(三)「山トナルテフミナカノ池」袋草子「伊勢物語ニ、有密事ニ之故為指俳事」之由歟伊勢物語ニ「伊勢人ハ俳事ストモ此道ヲ国君ニ等セテ三ヒ始メ」とんべン 山家集の「伊勢人ハヒカゴトシケリさうノさ、ハナシテ学ビツナレ」今昔○○○ニ伊勢人ハ心イトヤシク親ル兄弟ノ物ヲモ互ニ掠メ取リナドスル由ニセリ

いせーびと 伊勢人 伊勢人ハ俳事ストモ云フ いせノ俳ヲ見ル

いせーまゐり 伊勢参 伊勢参ニ同ジ

いしーぼたん 石牡丹 いそぎんちゃくノ一名

いしなぐも 仁下ニ 射速 矢ヲ射テ敵ヲ滅ス也、[illegible]

太平記五ノ一「コレヲ見テ敢テ近ヅク者一人モナシ、遠矢ニ射スクメケレバ」

いしる 南 強請 (ものを)強ク、乗ル、泥責、ものを、ものを(揺)忍ぶ、ゆ

ゆ(俗語) 也 同ジ

いせーまみがた 伊勢屋敷 伊勢屋敷ノ俗称、前後上(矢ノ)ナシ(筑紫雑考三) 東海道 名所記(萬治)ノ「老若男女いせ家がき近江蒲生ノ者タルベアリ」

いーせい 異性 (一)性質ノ異ナルモノ(二)男女牝牡相對タル種

いーせい 異姓 異ナル姓、(同姓ニ對ス)

いーせい 醫生 醫術ヲ業ブル書生

いせ一ちんと「伊勢音頭」伊勢國古市ヲ謡フ俗小唄ノ名、其近地ハ川崎ニ起ル
川崎音頭ノ名アリ此謡ニ伴フ踊ヲ伊勢踊トモ云フ 武徳編年集成五、永禄四
年九月「今川上総介氏真ハ、後歌、躍鞠ニ耽リ、伊勢ヲドリ乱舞ニ長レタリ」
延享元中・再ビ起リ伊勢山田ノ間山ノ旅人宿ノ遊女舞ヲ「伊勢音頭」ト称シ
伊勢ニ特ノ屋敷名古屋ノ城ニ特ノ」ナド謡フ 江戸ニ流行ス 紫一本(天和)「延享
元年ヨリ伊勢ヲ唄ハル」同、川柳涼「當世風流、伊勢音頭」
いせ一ちゃう「伊勢踊」いせ一ちんと、俗ノ踊ノ名
いせき「醫籍」開業ノ免許アル醫師ヲ登録スル帳簿、内務省ニ備ヘル

森むらや製

いせ一ふう「伊勢風」大永天文ノ人伊勢神宮、神主荒木田宗武ノ特用語 十七字
俳諧ノ祖ヨリ後ニ古風(宗長)壺林風(宗匠)蕉風(芭蕉)ナド起リテヨリ宗武ノ
流ヲ汲ムモノヲ伊勢風ト言ヒ倣ヒ杉間望一ノ涼菟ノ乙由ナド是レナリ
いせは「伊勢派」伊勢風ニ同ジ
いせりう「伊勢流」武家礼式ノ流儀、名、足利將軍義満ノ近臣伊勢伊勢
守貞継ノ祖トス別ニ中古馬道ニ小笠原流アリ伊勢氏ハ笠原氏ノ門ヨリ出
代々デ室町幕府ノ政所別當職ニテ礼式制度ヲ世ニ行ヒキ
いゐぜう「遺詔」チノミコトノリ、崩御ニ際シテ遺シオキタマヘル詔
雄略紀、「遺詔」名目ナリ「遺詔」
推古紀、三年、天平感神三年春夏ノ「十都天皇(元正)ノ後乃治命ニ未リカマヒニク」

いせのあま

いせのみち 「伊勢道」 ニ伊勢ノ内言トヲ外ニ言トノ間五十町ヲ一里トスルニ五十里ヲ一里トスル稱

いせのうち 「伊勢東辺」 東南ノ辺 神中抄ニ、「辰巳ノ風ヲバ、おしなべトヨフ又伊勢ノ方ヲ「出雲ノ方言ニいせちトヨフ」

いせき 「遺跡」 (二)旧跡、古跡 (三)相続スベキ家、跡目、(静岡縣ニ、相続人ヲ直チニいせきトヨフ) 「遺跡相続」

いせのうみ 「伊勢海」 俗国名ノ歌曲、名「伊勢ノ海ノ清キ渚ノ潮間ニ神石ヲ深ヤ掘ムト奥ヤ拾ム珠ヤ拾ム」榮義、歌合「いせのうみトヨフ俗国名ヲ其ヲ手ニ縋ヒタリ」

いそ 磯 (イソナガ 其上ガ長ケレバ、あそこ、(彼處) 夫かしこ) の 注ノ際

~~いそがに 磯蟹 豆艦ノ一名~~

いそがく (副) 急グサマニ云フ後「いそがば廻レ」

いそく 異 我ニ異ナル種族 (同族ニ書ス)

いそとさし 形 磯臭 海草ノ臭ヲ帶ブル

いそぶ (動) 「いそぶ」 そばぶニ同ジ其條ヲ見ヨ

いそみ 磯回 磯ヲ、イソマ、イソワ 方十七ノ三十二、白浜ノ岩ニ伊蘇未ヲ潜グ船」

いそら 「いらノ條ヲ見ヨ」 磯トヨフニ同ジ 神楽歌ニ、「○○ガ時ニ朝釣ル海人ヲ」

△ノ如シ

思ハク、敬ハくすとノ同じ

いそはく（名）「弟」（弟ノコヲいそはくトモヒテいそふさとトモ云フ意トナル）万四ノ三十四「手弱女ト言霊ハ（言ヲヨブ）」●こんク」ハ「ハ久（飼フコト）ニ好シモ」（鷹ニ云フ）△弟フコト、競フコト　万一ノ二十三「持チコセル稚ノ抓手ヨ百足ス筏ニ作リ上スラム伊蘇波久見ハ神ナガラナラム」

いそはく　自四　倉皇（心ノ狼狽、ものさわぐ意）「後ものさわぐ、焦急ものさわぐ意」

●壓ハナドニテ驚キ、狼狽ス、ウスク、ソク、スロク、ソソログ　神代紀「美人驚恐、立チ伊須須岐（彼）大殿祭祝詞「夜女（夜目）ノ伊須須伎（名詞ニ用ヒタル）イツモキ事無ク」（睡眠ノ驚キ無クノ意）

いそくーりう　怛足流　神道ノ一派（吉川惟足ノ唱ヘタル人、一〇〇〇年殺）

表むらや製

滋賀県主
佐

いそしみこと（形三）「勤」（勤ノ意ハ、強根ノ形容詞ナル成ル功シノ約カ）

能ク勤メタリ、功シ、忠実ナカリ　出精ナリ

仲哀紀ノ「天皇即美五十迩手」曰「伊蘇志」釋紀十「筑前風土記、警固ノ「五迩手曰恪手」謂伊蘇志」字鏡ハ「勤、伊曾之久」文徳実録四ノ「楯原東人天平勝宝元年為駿河守」時土出黄金而献之幸美其功曰勤哉也遂取勤臣之義賜姓伊蘇志臣」

いそしむ　自四「勤」（形容詞ノ活勤シテ動詞トス　嘉しむ、喜しむ同趣）

（一）勤ミクス、習熟ノ勤ム、ホネヲル、出精ス　特統紀ノ「勤而不懈」

（二）功アリトス　続紀、十七、天平勝宝元年四月詔「伊蘇之美嘉ミ志レタマハス」

（大臣ノ功ニ直フナリ）

いそ一ぐび 磯恵 磯ノ恵石、古名、イハベニ、今、又、ヰトビ、庭ノ滝、又井ナドノ下流ノ中ニ點々配置シテ踏ミ行ニヤフルモノ

いたむ 自四 傷 至 活用、切ル意、傷シト同語根

(一) 切ニ悲シミ感ズ、傷ハ「心ノ深ク歎ク、神代紀上ノ「故以哀傷」歎キ悲

「悲傷」伊太牟 天治字鏡 三四「惆悵伊太牟」

「群行ヒ心ヲ痛ミ」

(二) 毀損 「器ガいたむ」身代ガいたむ

(三) 衰ヘル 腐敗 「眼ガいたむ」

失木十五、秋「雨降レバ秋ノ来ルニヤ木ノ葉ハ黄ニいたむ」

(三) 衰ヘル 腐敗 「眼ガいたむ」

いたむ 他下二 傷 痛ヤヤム 毒キ屋たむ ナリ

(一) 傷マス、悲ミ痛ヤヤマス 「心ヲいためテ思案ス」 作孰ヲ

(二) 毀損 毀ツコトヲ、枯ラス、コナス、失木十五、秋「雨降レバ秋

毒キ屋たむ 「いためる」 (三)

ノ来ルニヤ木ノ葉モ屋いたむナリ」

いたみ、ふう 伊豆国 七字 俳諧ノ一派、摂津国伊丹ノ上島息翼ノ流レヲ汲ムモノ、
稲（伊勢ノ檀材屋 七字 ナド業ス）
いたみやけ 傷分 相撲ニ負傷セルニ因ル引分、
いたる 自四 至（行キ尽ク 罪ヲ 万ノ行キ尽ハシテ）
（二）トドク、オヨブ、達ス、「和ヨリ絶ヘ移リ」古今 十六 春下「春ノ色ノ半ハ過ギ
山ノ里ニ月ノ味ハ知ル花ノ見ユル」 和ヨリ絶ヘたるまで
（三）行キツク 到着ス、到 神代紀上「ここ到ル、」 私記「到、以多流」
仁徳紀 年月「何ノ国ニ伊多流」 万 四 「間遠ク雪ノ見ユル妹ガ家ト」
イツカ伊多良ム 歩ム 吾ガ馬」（三）行キワタル、行キトドク、古今 二 春下「春ノ色
ヒタリいたらヌ里ハナシ 咲ル咲ナザル花ノ見ユラム」（四）極サ 極ル 極ル

万三 四十七 「天雲ノ影方ノ極ミ大ゼノ」 「至リ畫ゼリ」（五）為ル 為ル 「遂ニ死ニ至ラ」

いたいし 板石（二）平タク板ノ如キ石（三）石ヲ長サ三尺許、幅一尺許ノ長サ三寸
許ニ切出シタルモノ 敷石ニ用ヰル 御影石ナルガ多シ
いたいたし 形ニ 痛タ 甚ダイタハシ、甚ダイトホシ、
いたう 副 いたく（甚）善便 甚 侍ヲ見ヲ
いたく 万十七ノ四 「床ニ鶴ノ如ク伊多家苦シ日ニケニ増サバ」（病ミ苦フ）
いたかふ ふたこへ 他ヒニ 抱 いだく 延、宗む、あがまる 同類 嗽むにらまる
抱く 同じ 竹取 おうな 塗籠ノ内ニかくや姫ヲいだかへ居リ
いたけく（副） 甚 痛く 延、実けく 恋しけく 同類 甚 痛く 同じ 甚 こと、
万十七ノ三十三 「床ト衣側ヲ伊多家苦シ日ニケニ増サル」
いたこんがう 板金剛 金さんがう 金剛 係ル

いたゞきもち「板卸」書肆ノ請、板本ノ初摺、開版

いただき題

いただきもち　戴餅　古（歳首ニ小児ノ祝事、大中小ノ餅ヲ煙ニ取テ小児ノ頂ニ触レ
メ一ヶ「鬱国カレ高ミニ貴トカレ」ナド祝言ヲ唱フ五歳マデナリ（蒼梧隨筆）四条ニテ
いただき　濱松物語ニ「御戴餅ゾ中仙ニ坂コソシタラマツラヤタマハメ」牧撰ニ帖ニ
「かさなる春の初のいただきに官位ハソナヘアゲツ、」

いただく　他ニ　戴（至高ヲ頂ニ戴キ、差上グル意、長意ヲ多ク接尾辞
ヲたふさく　装束ヲさうぞきナド用ル類ノ総ナリ）「(一)頭ノ上ニ戴ス、捧ゲ戴
万二十ノ「阿母刀自モ玉モガモヤ伊多太伎ラ日髪ノ中ニアヘマカマクモ」同五、〇〇
「大御命戴キモチテ庸土ノ遠キ境ニ遣ハシ」(三)敬ヒ仕フ。等メ尊ブ。

後拾遺ノ神祇、祖父、父、孫、代、朝親三代マデニ「たゞきマツル自主大神」
源換抄ノ「石山ノ併ヲ云ニ、だゞかマホシク」
(三)貴ブ敬ヒ　頂戴ス　(四)食ス、飲ム、敬語
(四)ゴクゼン（東京通ノ俗）失敗
天ヲ戴ク　天ノ下ニ在ル
いたづき　平頸ノ前（枕冥ノ義ニ）板的ノ云ニモアラムカ平頸ハ平頭ノ意ナリ」
猪古ノ白ヲ矢ニ用ル鏃ノ名、鏃頸ノ類、角又木ニ造リ先尖ニ
和名抄、三ノ七「平頸箭、鏃不鋭者、以太都岐」内藤家式「矢、四貫、角、伊太
豆俊、木ハ太豆支」後ニ錫ニ造リ又彩飾ヲ用ル尖ノ中高ニシテ大ノ孔ヲ穿ツ椎ノ
実ノ形シタルヲカラ土式ノみトロフ為忠家後度百首「石ニシテ射手ノ諸人鞆

ツケテ鍋ノいたゝき爪ナラスナリ」吉部秋川抄「箭、平聖、鍋七ゑ」

いたゞはし　形ニ　[illegible]

（一）たつがはし同し　景行紀「[illegible]」

名義抄「[illegible]」

（二）[illegible]「[illegible]」

（三）[illegible]「[illegible]」

狩衣ノ下「憂キ身ドモ[illegible]」

（四）[illegible]大切ニ思フヤウニトナレ、空穂物語「[illegible]」

源氏湖「[illegible]」

（五）イタイタシ、ブビンナリ　枕草子「親ナドノ憎シウスルヲバ、メダケミヲフラシテ、[illegible]」

はしラコノオボエシ　謡曲景清「アマリニ御いたはしさ、ゴレマデ御供申シテ候」

（文政ノ小唄集浮世草）

いたゞし　潮来節（常陸風土記ニ板来トアリ　鹿島神社内ニ潮宮ト云アリ）

（陸内国中行方郡ニ塩ノ事ヲおいたみトヨフトアリトヨフ）水戸光圀公潮来ト改メタトヨフ」常陸国行方郡潮来ノ地ニ起ル船頭唄、同地ノ妓楼ニ行ケバ、セセ五ノ四ニ成バ元唄ハ「潮来出島ノ真菰ノ中ニ菖蒲咲クトハ不思議知ル人」明和頃ヨリ江戸ニ傳リ唱ヒ終ニ「ヨリヤ来トヨトヤ来ドヤ来ヤナニヤ」ト唱ヒ風ノ文化ノ頃「よしたの節」ト唱ヘ節ヲ変化シ天保ニ至ラ都々一節ト云フ重

（行方郡之誤（方言ニ潮ヲいたトヨフトソ）

い

いたゞしぼり　（因幡ノ塩ノ意ニモアルカ）膳部ニ添ヘ塩梅ノ塩ナルベシ　枕草子「文字ニモキテハルヤウアラメド心得ヌ物ノ名ハ、ためぢは、あさめ、かなぢら」厨事類記ニ膳部ニ山葵、ためぢはヲ異ニ出ス

いたし　形一　傷

（二）事ニ感ジテ心苦シ、ナヤマシ、国二十ノ十三「秋ト云ヘバ心ソワ〻〻」

（三）哀レナリ、イタハシ、ツヒニナリ　憐　哀　万十七ノ〻〻「ソコ思ヘバ心シ伊多思ホトトギス」

垂仁紀ノ〻〻「以生所受令殉亡者是其傷矣」源、御幸ノ二十二「古代ハ

法文カキナレド、いたしヤ此御手ヨ昔ハ上手ニ物ニタヒケルヲ」

いたしかた　致方　（仕方）「致方無御座候」

いたぶ　（木蓮ノ別名）実相　似多　夭桃　ぬばたまは　ノ名イタブボウ　訛ヒテ

いたづら　樹名ハタブノ訛

いたはり　疲　銭場ニテ客人ノ服ヲ盗ム

森むらや製

△万一〇〇〇「解肝イタミ心ヲノ〻〻」

万十ノ三十六「屋ヲ痛ミ葺」

「痛ミ」

いたし　形一　甚　（痛シノ轉、身ニ受ケテ痛キバカリ切ナルハナケレバナリ）

（二）ハナハダシキモノ　甚　致明白ノ〻〻「鞠問極切」万十七ノ〻〻「糞斬

ナレテ古ミノ上ニ致アルノシ

食ハン、痛女好　△食事ハ熱イタイト、アラアラシ、

（三）甚ダ好シ、極メテスグレタリ　絶好　源、明石ニ「送ル共、木深クいたき所マ

ヤリテ見所アル住ヒナリ」同若紫五「彼国ノ前ノ守、しほぢノ娘カシヅキタル家イト、

万　湾擇ノ〻〻「ナレテ面白ルヲ、たしトオボス」

痛　（傷シノ約、因ヨリ肉身ニ感ズル意ナリ）

痛ム感ジアリ（痛シ、歎ス）　和名抄、三ノ十五、疾類「痛伊太之」醫心方〻〻〻

痛　（イタ）

いたし　形一　[illegible]（傷）（[illegible]ノ治用切ナル意、傷ムト同趣）

[illegible]物ヒノキ[illegible]類「痛」

（二）事ニ感ジテ心苦シ、ナヤマシ、獲　国二十ノ十三「杖ト云ヘバ心ソワ[illegible]」

（三）哀レナリ、イタハシ　愍　[illegible]　万十七ノ[illegible]「ソコ思ヘバ心シ伊多思ホトトギス」

垂仁紀ノ[illegible]「以生所愛令殉亡者、是甚傷矣」源、御葬ノ二十二「古代ハ

清反カキナレド、いたしヤ此所ニモ昔ノ上手ニ物シタマヒケルヲ」

いたしかた　致方　[illegible]ノ敬語「致方無御座候」

いたぶ　（未遂ノ況ベシ）宣相　似ル　天枇杷　ぬぐはノ名イタボウ

いたつぱう　樹名、いたぶノ況ウ

いたわり　労き　板間稽　我場ニテ客人ノ服ヲ盗取ル

森むらや製

△万一ノ[illegible]「辟肝」ノ心ヲ[illegible]ノ[illegible]

万十ノ三十六「風ヲ痛ミ甚イタ掘廻ル」

いたし　形二　甚イタ（痛シノ轉、身ニ受ケテ痛ミバカリ切ナルハナケレバナリ）

（一）ハナハダ、キツシ、痛甚　致明紀ノ[illegible]「鞠問極切」万十六ノ[illegible]「糞鮒

[illegible]ん、痛イタ女奴」△[illegible]「[illegible]」

（三）甚イタク好シ、極メテスグレタリ　絶好　源、明石ニ「造ル甚、木深クいたき所マ

ヤリテ見所アル住ヒナリ」同若紫五「往國ノ前ノ宋しほぢノ娘カシヅキタル家イト、

いたしカシ　同澪標十「[illegible]ナレテ面ニルヲいたしトオボス」

いたし　形三　痛（傷シノ轉、国ヲ肉身ニ感ズル意ナリ）

痛ム感ジアリ（痛シニ對ス）　和名抄、三ノ十五、疾類「療伊太之」醫心方[illegible]

痛イタ

いたしぎぬ「出衣」(一)直衣狩衣ナドノ下ニ下着ノ袿ノ端ヲ少シ表ハレテ着ルモノ
(指貫ノ表ニ)出袴、出袿モ同じ 枕草子、三段「櫻ノ直衣ニいだしたる袿」
拾遺愚草「出袿」宇治拾遺、十「直衣ノ長サニメデタキ袿ヨリ青キ打チタル
いだしあやめにて」(三)牛車ノ簾ノ下ヨリ垂リタル女ノ袖口、裳ノ裾ヲ出スコト
いたば 板場、板夫(板前ニ同じ)(大板)
いたばね 板羽目 板張ノ羽目、ニタテ
いたばり 板張 板ノ張リ詰ムコト
いたぎん 板銀 板金ノ銀貨幣(いたがねノ條ヲ見ヨ)板壁、板羽目ナドニ貼リ
舊新訳集「大里ト夫ヨハ中ヤヨカルニ」歪ウタ低包ムいた銀
(貴ヲ)

いたはる 自ロ 煩ヒ(傷む)轉、齋む、ゆまはる」
(二)イタバラ(ヒ)ネタル 鈴明紀ノ「悔往戒今之所勞想」最勝王經音注
「勞、伊太ハ留」名義抄「勞、勞ハ病」
(三)勞ハリテ病ム 空穂、國濱下「日頃いたはる所侍リテ院ニモ内ニモ參リハヘリ」
歌輔集「いたはる事アリテエマヒニタリ」
いたはり 他ロ 勞(前條ノ傳ヲ見ヨ)いたつくこと自他アルニ同じ
(二)勞メテ愛ニアツカフ(ヒ)ネギラフ 皇極紀ノ「勿使」「勿勞群廣」
源、桐壺三「右ノ大臣ノいたはりカシヅキタフ住居ハ」空穂、後蔭下「此度ノ事コ
ニテ女ニテハ事ナル心コトニ設ケノ物ナドモいたはりテシタヘ」
(三)情ミヲカケ勞レム、慰ム、撫ム 伊勢ノ「常ノ使ヨリハ此人ヨクいたはれト言ヒ」リケレバ」

切ニ勞ム

文德實錄、七、ノ「前ヨリ勞リ繕ハセタマフ宮ニ去閏四月ニ作リ學リタ」

いたはり（名）（二）イタハルコト、（工）ホネオリ、テガラ、

神代紀上ノ四十「汝浮建其大造之績」（イタハリ）「矣」私記「績以太波利」皇極紀

ヨミ「可立功名」（イタハリ）特後代ノ「駑其功」（イタハリヲ）

（三）苦（イタミ）リテ痛ムコト、ヤマヒ（病）（疾）空穂、吹上下「此阿倉闇梨ニツケタテマツレバ

いたはりヤメツ」

（三）苦リテ心ヲ用ヒルコト、注意

ツキタルサマ」

（四）苦リテ慎レムコト、メグミ、撫恤 空穂、田鶴彩島「帝殿ノ御いたはりニテ豊カニ

経タマフ」

いたむ 自四 痛（傷む）（四段）（肉身ニ感ズル意）

（傷悼）

（其局所ニ切ニ）

（外ヨリ侵セル或ハ病ム所ナトアリテ苦シミ難ム）

いたむ 他四 悼（傷む）（四段）（痛）ノ自動ノ他動ニ用ヒタリ」

傷マシト思フ、悲シミ思フ「人ノ死ヲいたむ」

いため メルメレ 他下二 痛（二段）ノ口語（三）責ム、苦シメル、呵責

狂言記、老武者「此ノ者ヲシテタカニいためツケ、為ニナルマイゾ」いためツケ

（イタメ）「牛馬ヲ」

（ヨロ）

「鞭ツ」（コテ）いためる

いたわり 板割 板材ノ幅狭ク厚サ一寸許ニ挽キ成シタル板、

いしだき 石抱 江戸時代ノ拷問ノ方法、三角ノ木ヲ膝ノ上ニ平ラニ並ベ其上ニ罪人ヲ坐セシメ其形ノ石ヲ載セ二枚三枚以上板重ネ戸板ヲ揺カシテ

痛メ責ムルコト

いたや 板屋根 板ノ一種、葦ノ刻ミ鉄板ヲ張キタル、畧シテ板ヲ葺キタル屋根

森むらや製

いたび 板碑 一種ノ石塔婆、鎌倉時代ヨリ室町時代ニカケテ関東ニ最モ多ク、大小アレド多クハ高サ三四尺、幅一二尺、厚サ一寸程、青ミタル板ノ如キ石ヲ用ヒタリ、殊ニ青石（緑泥片石）ナルガ多シ、頂ノ中央尖リ面ニ梵字、殺生月日、法名ヲ刻リ下ニ教白ノ字アルモノ多シ、追善ノ為ニ建テタルモノ、如シ

供養塔

いたづら 自四 基振（基ノ揺動）基ニテ動揺ス

いたづらっこ 徒児 基振ヲスル小児、

いたぶる 自四 基振 基ノ荒ビ立ツ、万ナリ 「盛ヲ基ニ基振ル」

拷問ノ俗語

いためぎんみ 痛吟味 拷問ノ俗語

いたりて（副）至 キハメテ、至極ニ、イタッテ、著聞集ニ「慈悲いたりて深き故ニ」

いちげ 一夏 （夏イッパイ、夏）僧家ノ内挙リテ、夏ナルガ如シ

此間安居ス（結夏・降ノ夏ヨ）

いちげん 一言 ヒトコト、イチゴン、

いちげん 一見 始メテ見参、初對面、初謁

いちびさ（名）莨蓙（いちび、菌麻ニモアル、ヲカ共ニ葉ニ刺アリ）異シテ、いちび（苘麻）ト

云フ植物ノ「莨蓙」字鏡五十五「蓙、伊知比古」

いちびき 廿擬 廿人ノ如ク

いちじき 一食 一日ニ唯一ツ食事シテアルク、（二食ニ対ス）（三）僧ノ一日一食ナル制、齋ノ條見ヨ

いちよう 遺書 カキオキ

いごん 遺言 遺言ノ制

いちじ　一字（二）字ヒトツ（三）字ヒトツ

字　経文ヲ云フ　陛下ハ其字ノ名ニ字ノ一字ヲ陛下ニ奉リ（主君ノ名ヲ）

朝宗ハ鎌倉ノ一字ヲ受ケ名ノ後醍醐天皇御名尊治ノ一字ヲ足利高氏

賜ヒテ尊氏ヲ称ス　南朝北朝　「建武三年　賜諸寺社　諸国ニ

鳥帽子ヲ　白拍子　徳院　密奥記　康長六年「是年二條左大臣　昭憲長ヲ元服

セシム左府ノ請ニヨリ　大御所ノ御名ノ一字ヲ以カサレト康道ト名ケシム」

いちじきんらい　一ヶ三礼　一月三礼ノ俗ヲ見ヨ

いちじしきん　一時賜金　功勞アル者ニ一時限リ金ヲ賜ハルヲ（今金ナドニ当ル）

いちじけんたいぶ　一元大武　牛ノ異名　出典、後考

いーぢ　紐掛　ツナギタキツ、エチコウアルヲ

森むらや製

いちおよ　一女　ヒトリノ女（三）ヒトリノムスメ

「一男一女ヲ生ム」

いちだん　一男　ヒトリノオトコ、オトコ、ムスコ（一男）ニ同ジ

いちにょ　一女　（一女）ニ同ジ　狂言沈静宜山伏「一にょ三男ヲ設ケタマフ」

いちねん　一年（三）トトセ、一箇年（三）元年

いちまたい　一對　軍ノ一對（對屋）ノ俗ヲ見ヨ

いちのて　一手　ヤ（ニ）スベキ手段、洲一第「ほうがん一の手」　和歌草ノ出ク

いちのや　一矢　最初ノ第一ニ射出ス矢、風矢　ヤ二ツルヲ二ノ矢又　ト云フ

（矢二本ヲ一ド手ト云ヒ　馬矢　乙矢　保元ノ合戦ノ「一ノ矢ヲ射損ジテ二ノ矢ヲツガフ」）

いちのゐん　一院　院ノ俗ヲ見ヨ

~~いちば　市場　市ノ場~~

いちばんさき　一番草（草刈ル）

稲田ニ生ズル雑草ヲ取除クノ稲穂ニ出ル前ニ行フヲ最初ニ行フヲ二番草ト云フ

いちばい 「一倍」（さ）倍ト云ヒ二倍ト云フモノ（王）「一番一段」「一番」

いちばい（副）「一倍」番、外番ニテ、「一段」「一人一倍」

いちばんくび 「一番首」取ッテ最初ニ取ル名敵ノ首

いちばんさき 「一番子」最初ニ生レタ子、長男長女、ソウリヤウ、長子

誕生の上（明暦）三、「楽ニテ座敷、一番ヨリ一人設ケラル」

いちばんしょうぶ 「一番勝負」二度ニ一度ニ会ヒテ勝負ヲ決スルニ、二度ニセズ

いちばんだて 「一番酢」酢ノ味ヲ見ル

いちばんぞえ 「一番備」最先ノ陣立、一陣、先陣、先鋒（一番手）

いちばんだいこ 「一番太鼓」相図ノ太鼓ノ最初ニ打ツモノ（名）青鷺ニテ（作者東都茶人）

「鷺世ヤー二番鶴」（作者東都茶人）入ル

いちばんちや 「一番茶」葉茶ノ最初ニ摘ミテ製シタモノ（別茶ヲ）

△鴨、呉音、えふ、

材逸節風雅風、行脚、沈後、輝ミテ、勝業」

結跏趺坐ノ数集文字動ノ見ル

イチヤウ 「銀杏」

ぎんなん 「銀杏」

「銀杏」ヲ「公孫樹」ハ「鴨脚」ノ字ヲ宋音ヨリ訛ル（高木）

ヒ直ニ幾ヲテ梢ニ枝多シ葉ノ形開ケル扇ノ如ク、又、鴨ノ脚ノ如シ夏ノ初メ五七分ノ莖ノ頭ニ淡青キ花ヲ開ク、山椒ノ粒ノ如シ葉ノ末ニ岐アルヲ雌トス、實ヲ結ブ、むくろじノ子ニ似テ核アリ、核ノ色白ク、二角三角アリ、其仁ヲ炒リテ食フ、銀杏トイフ。

（木理緻密ニシテ碁盤ナドヲ造ル）

「銀杏」異名、鴨脚、葉形

樹齢六七百年ヲ限リトス

（一）

（二）

（三）

如鴨脚（今ノ支那音ヤウキヤク）「銀杏」「鴨脚」

因名鴨脚

（二）いちやうがしらノ異

大根ヲ輪ゼシモノ

（三）

（一）いちやうノ葉ノ形シテ、三角ノ物ハ一面ハ圓ニシテ他ノ二面ハ直線ナルモノ、本草個目、三十「鴨脚子、葉似鴨掌」

いちばい　一倍（ばい）倍ト云ヒ二倍ト云フ意ニ

いちばい（同）一倍　屢、外重箱ニ入、一段（一人一倍宜シク）

いちばんこび　一番首　敵ヲ最初ニ取ル者ノ名　敵ノ首

いちばんさき　一番子　最初ニ生レタル子、長男、長女、ハツリヤス、長子

誕生の上（明暦）三、東ニ在屋敷、一番子ノ一人設ケタル

いちばんしょうぶ　一番勝負　二度ノ合ニテ勝負ヲ決スル、二度ノセズ

いちばんだ　一番酢　酢ノ味ノ良ノ見ル

いちばんそう　一番備　最先ノ陣立、一陣、先陣、先鋒　一番手

いちばんだいこ　一番太鼓　相図ノ太鼓ノ最初ニ打ツモノ　十月朝日ニ

（作者東都某氏ノ入ル）

いちばんたけ　一番竹　一番竹葉ノ最初ニ繁ルモノ　竹ノ

イチヤウ　鴨脚　公孫樹　銀杏　（子）

（鴨脚樹科）

（鴨脚）字ハ宋音いちやうナリ（今ノ支那音ヤチヤ）

お）宋ノ銀杏ヲ宋音ヨリ銀杏時代ノ初ニ渡ル支那産

（銀杏）

海ヲ渡リテ植ヱタ

雅楽ヲ奏シト思ル　此樹野生ニシテ巨樹アレドモ樹齢六七百年ニ限リ

カードノ文ハル

天素　往来（一條兼良公）「銀杏」下畳葉（文安）「銀杏」異名、鴨脚葉形

如鴨脚」（今ノ支那）「銀杏、鴨脚」本草綱目、三十「鴨脚ハ葉似鴨掌」

因名鴨脚」　いちやうノ葉ノ形ニ似タル　大根ヲ輪ゼシテ其間ニ三角ノ物ノ一面ハ図ニシテ他ノ二面直線ナルモノ

（三）いちやうがらノ男　大根ヲ輪ゼシテ其間ニ三角ノ物ノ一面ハ図ニシテ他ノ二面直線ナルモノ

（三）

イチヤウがら「銀杏頭」おそヨサ、一種、はけさをヲ束廣ク張クテ、銀杏ノ葉ノ如クしたモノ
侠客ナド、結ビ、用ヒテ居ル。
色道大鑑（延寶）「髪ノ結ヒ方ハ立髪、銀杏がら、ふと元結、コレハ法ムキ、陽氣者
ノ好ム所なり」

いちばん「一番」（一番ノ伴ヲ見ル）（一）トツガヒ、二人ヅヽ若シクハ二人以上ノ組ヲナシ、
相撲、碁、將棋ナド二人差向ヒニ行フヲ一番トイフ。今昔、四「二人老ノ碁打ツ（ヲ）
居タリ、いちばん打畢リテ一人ノ古老ハ立チヌ」大舎人孝式「名車駕行幸者人ヲ
人四番、以十二人爲一番」

（二）特ニテ能、謡曲、歌舞ナド一度ニ演ズルヲ、一曲、一謡

（三）ヒトタビ、一度、一回「一番勝負」（二度ノ勝負）

（四）第一ノ一番ノ意ナドヨリ轉ジテ、眞先、最初、第一「一番鎗」「一番ヲ」

（五）最ヲ大キクシテ、最ヲ購ヒ、最大、最優「一番ノ帰ル」「一番ノ子」

いちばん（副）「一番」第一ニ、至極ニ、最モ、「一番好ク」「一番美事ナ」

（十二月ノ部ニ第一）

いちゞ　「一名都若」（一ヲ市ニ通ハセ、市ノ繁盛ハ都ヲ中心トスル意ナリ）

盲人ノ名ニ何一トツケテ、一市都ニ階級アリトスルじやうだ（坊方）ノ條ヲ見ヨ。

五元集拾遺（其角）「座頭ノ都トハイカニト三ツニテ　一方ト云フ

（三味線・ヒイテノコリシ四ツノ緒（琴ノ）一ハ、めくらノ名ニナリニケリ」

いちかた「一方」いちヲ條ヲ見ヨ

いちかばちか（副）（いちノ音調ニシテ）又ハ四詩ニ通ハセテ云フ　十二月

（二）博奕ノ語、二ツノ内ノ一番ニ一ガ出ルカ失敗カヲ意ヲ云フ　「出たとか勝負」

「坐たら目」ナドモ意同ジ、（中世書ニモナドハ絵）

（三）轉ジテ東ヲ行ク道ニ住ム人ノ投機ノ意ナリ（筑前博多ニテ成功カ

不成功カノ意ニハちかはちかトモ云フ

いちがーさかえた（白）（一期栄ヘタ）轉ジテ五個言集覽又物事種彦ノ説（集古雲

談庚戌ノ二）小児ノ御伽噺、昔話ドノ終結ニ用ル語、祝言ナルベシ

いちーさき（遠先）（ち（遠）ノ條ヲ見ヨ）真実、第一、最初、最先（ちさきカケテ走リ出ル

いちーばる　自ハ意地張ル意ヲ張ル、我意ヲトホス、強抗

三十二ノ十

おもしろ草々

ニ三七三

いちじーまんりん　二字合語　ばるみれんトモ云フ　梵字ノ名

いちらあーの、ゲ　一樹蔭一河ノ流ニモ云フ　佛教ノ語ナリ　同ジ木蔭ニモ雨宿

リニ同ジ　河水ヲ汲ミ合フモ皆前世ヨリノ因縁ナリトモ云フナリ　知ル人ト

説法明論「或處一村、箇一樹ヲ汲ミ一河流ニ立ツ皆是先世結縁」

古文類談（隋張郎ヲ）四、汲流一河接弥深、屋雨一樹恩殊親（夏小

雜談三）盛衰記三十九、「一樹蔭ニ宿リ合ヒ、一河ノ流ヲ汲ム人モ先世ノ

宿縁ナリ」

いちどーいっさい　一汁一菜　食事ノ副食物ニ汁一品、菜一品ヲ極メテ質素ナルナリ

一汁三菜　一汁五菜ナドモアリ

平家七ノ三十
住「一乗妙文」

十二

いちじょう 一乗（成仏ノ乗物ノ意ト云フ）

仏経ノ語、唯最上乗ノ教法、妙法蓮華経ヲ一乗妙典ト云フ

法華経、方便品「十方仏土中、唯有二乗法、無二又無三」

平家 巻七 三十 「一乗妙典」

盛衰記四ノ第三住「一乗教法ヲ味ヒテ書トモ」

いちじょうめうてん 一乗妙典 一乗ノ経ヲ尊ム

いちじのし 一字餅 一字ニテモ教ヘニ名ハ餅ト倫グコト

鼠璞「僧齋已、詠早梅詩云、前村深雪裏、昨夜数枝開、鄭谷五数枝非早也未若一枝一齋已頗谷為一字師」

いちだよ 一女（三）ヒトリヨシナ（三）第一ノ娘、長女

（女ノ一番ヨ）

いちばんて 一番手 いちばんさきなる人、同じ

いちばんでし 一番弟子 内（第一位ノ）最モ傳ニ名モ高キ弟子

いちばんめ 一番目 ヰ一番、最初、数番以上ニ上ルトキ、一ニ演ズル一勝負ノ

菓物ド加ヘテ四番ト云フ 柱長十菓三番ト云ヒ、次ニ十番目ト云フ其間ニ一

いちにちばれ 一日法例（ばれハ法例ノ急ナリ）当ニ一日晴ナド記ス、其日晴

服飾ニ寄スル力（イデタチ） （二）其官ニアラザル人ニ、權ニ其事ヲ行ハシムルトキ、衣服車

輿等ニ其日一日許サルヽナリ 一日晴。 續紀。「一日法例」

（三）器具ニモ云フ、かけがゝ長ニモアリ 三内口決（天正）「當所受用ナル

物者、一日晴ニ帰ニ検懸盤」

ヒ菓子、ラモサガン
節ヌニテガラ

いちにちおき　一日置　其日ニ当ヲ置キ翌日ハ措キテ翌々日復タスルヲ、隔日。
ドッテオキ、隔月イチネンオキ　隔年　其年ニ
いちねんおき　一年置　隔年、いちにちおきヲ見ヨ
いちにちがわり　一日替　一日置ニ代リ合フ
いちにんりき　一人力　まんぐわ（三又鍬）ノ條ヲ見ヨ
いちはやし　形一　疾速　いち（逸）ノ條ヲ見ヨ
（三）最モ早シ　（甚ダ）疾シ、疾速　清水日記下ノ上「村ノ非ルホドニ門ハ早ク叩ク用ヲ知テ貴メ
タレバ云ニ」　三烈ニ　厳烈　鈍明但ハ「浦神厳是、人不敢近」
（母勢物語ノ「昔人ハカクハヤキミヤビヲナムシケル」
（三）心鋭ニ　鋭利　膳ノ海心ハ強く、カタガタ思シ入ル事ノ報セヲ
ホスヘカメリ」　盛衰記十七「石ノ海心ハ強く、カタガタ思シ入ル事ノ報セヲ
ホスヘカメリ」　盛衰記十七ノ第三條「天性入道（清盛）ハ善事ニモ悪事ニモ前後
ハヤ顔ニ出ハヤキ人ニ」

いちはやぶるフルヒヒ　自上ニ　逸速　いち（逸）ノ條ヲ見ヨ」勢ヒスルドク荒ブル。
鎮ム　奉祝記「皇御孫ノ朝廷ニ海心一速ニ治タハジトシテ」倭姫命世記「伊
豆速布留神」　（畏ミテ古ヘヲ思ヘ、）

いちやづけ「一夜漬」粕漬ノ黄ノ沢庵ノ其時ノ世学者ノ青同仔ニ脇色ニ似リ成スヘシ

いちやづけ「一夜漬」漬物ノ一夜ニテ成ル者ノ

いちふじ「一富士」吉夢ニテ云フ、一富士、二鷹、三茄子トニテ夢ニ見ル時ハ吉瑞トス駿河國ノ名産ヲ以テ五ツニテ一富士ハ三ツニ及ブ（富士山ヨリ出ル産ニ唐種ニテ逸物トモ茄子ハ当国ノ産最モ早ク成リテ老ヲ忘レトスト云フ（笈埃随筆三）

世話盡（明暦）諺「苦ヲ商ト舊ト云フ」（続五元集（其角）「春料ノ畑ヨキガム三捷ガカリ舊ト茄子トヨ浮橋ニ待ツ」（夢浮橋）

いちやづま「一夜妻」トヨ

いたらんばらい「賢拝」チ形ノ文拝方ニ文拝人ガ先ヲ三リチ形ヲ出サヌ時、即時金銭ノ文拝アイ

いちむろづくり「室造」うちむろづくり

いちやびやくしゅ 「二夜百首」百ノ題ヲ立テ、一夜ニ詩ヲ百首作ル
白氏文集、五十二、「日試詩百首」

和名抄ニモ行フ

いちやわうじ 「一王子」紀伊ノ熊野参詣道ニ九十九所ノ王子ノ社アル中ニ海士郡藤白ニアル王子、称徳天皇京都ヨリ行キテコレヲ下ス世ニ無世ノ王子

一ノ島居ト云フ

いちやのまつ 「一夜松」芝ノみひばゝ（千里無極）ヲ見キ

イチヤウ、まげ 「銀杏髷」丁島田髷ノ髪先ノ銀杏ノ葉ノ形ノ如ク結ビ成シタルモノ

イチヤリーかーし 「銀杏返」娘ナドノ髪ハ、髪ヲ上ツニ分ケ、髪ヲ二ツニ分ケ、髪ヲ二ツニ分ケ、中ヨリ左右ニ廻シテ銀杏ノ葉ノ形ノ如ク結ビタルモノ

イチヤウば 「銀杏羽」婦人ノ着物ノ紋ノ形、末廣ニ作リタルモノ

イチヤウば 「銀杏造」下駄ノ歯ノ形、末廣ニ作リタルモノ

イチヤウづる 「銀杏鶴」紋所ノ名、銀杏ノ一葉ヲ立テ、翼ヲ開キタル如ク、其ヲ左ノ方ニ首ノ如クス（鶴ニ銀杏ヲ図シタルモノ）

（黄麻 花、苘麻ニ似タリ）

いちび 「絹麻」ノ一名 編ム

いちびばばき 「苘麻脛巾」苘麻ノ皮ニテ造ル脛巾

和名抄ニモ出ル、行旅具ト苘ハ以知比、編之為行縢ト

いちび 「市日」市ノ立ツ日

いちびふだめし 「一分試」人体ノ十分ニ試ル不寸

一寸だめしニ同ジ

いちひ（いのき） 「櫟」（樹ノ名、通ハ大ニ異ニアルカ材ニ多クサ新トシ少ク反トス）櫟ノ古名

宮殿、四六、櫟、一以乃木 「万十六ノ三十」此片山ニ二立テル伊智比ガ許ニ

和名抄ナセノ世果蓏類「櫟子、以知比、相似而大於椎子者也」

いちび 「赤樹」いちびガシニ同ジ

椎子之比

いちぶ 「分」 小唐船ノ利銭ノ

其一分ノ配當受ケ故ニ名トス 國司ノ史生ノ異稱

職掌地上國司 史生 諸注「分」 任命スルヲ一分アロ云フ

職掌地上國司「十分ノ名者任諸國史生之名也 史生謂之一分」

いちぶめし 「一分ノ一分」(史生)ノ條ヲ見ヨ

いちぶ 二分 二歩 八分ノ條ヲ見ヨ (五)兩ノ四分ノ一。コレニ當テテ鑄出セル貨幣ニ

一分金 一分銀アリ 紙幣ニ一分札アリ

いちブツじゃうど 「佛浄土」 同ジ佛界ニ浄土ヲ落慕シテ「法門少仏言、一佛浄土ニ生

レタニヤアラムトオボユ」

いちぼう 「一時」 一日ニ見ワタシテ「景色ノ時ノ中ニアリ」

森むつや製

いちみ 「一味」 同ジ味方、同心、盛衰ヲ共ニスル 清水寺縁起

「各白山權現ノ使前ニ一味ノ和請

ヲ書キ」「一味同心ノ面々」

いちめ 「市女」 「商人ナル女、ヒサギメ、女商人、渋玉蔕 ヤシキ、ちゃノ商人、ヤミ」

天木

いちめい 「名」 ナイナミヤウ、アザナ、別名

いちもんふち (三) 「一文不知」 「一字モ知ラズ、一字ヲ法ニ解キ侯ズ、文盲ナリ、一文不通、

土佐日記ノ月ノ出「一文字コダニ知ラス者シガ足ハ十文字ニ踏ムテゾアリブ」

紫式部日記「いとこそ文字などは書キ侍ラズ」

沙石集ノ上「武勇ノ道ヲ好ミテ一文不通ナリケルガ」

いちよ 「遺著」 死後ニ遺シタル著作ノ書

いちもんをみ　一文惜　僅ニ替ヲモ惜ムヤウニシテ、大利ヲ失フニ心付カヌヲ一文惜みの百知
（第十五ノ新刊代蔵（　）四「一文惜しみの百知らずト云ヒ来ヨクク存ス（キヤリ）」）

いちもん　一文（一文銭一枚、安価ノ譬ヒ）、僅、一銭、

いちもんせん　一文銭

いちもんぐわし　一文菓子　駄菓子ノ一箇、銭一文ノ價ノモノ　一文菓子ハ、ドキリ
（一文菓、一文人形ナドヲ云フ同じ）

いちもんにんぎやう　一文人形　いちもんくわしヲ見ヨ

いちもんだち　一文帋　いちもんくわしヲ見ヨ

いちもんぞり　一文剃　ヒタ剃リヲ見ヨ

いちもんなし　一文無　極テ貧ニシテ、モノナシ、赤貧

いちぶ　一分　公廨稲ノ利錢ヲ國司ノ諸吏ニ配分スル、史生ノ一分ヲ受ノ因テ名トス」
國司ノ史生ノ異稱、史生ヲ任ズルノ一分名トスル　一分者
官名ノ五ノ一「職員令云、史生、官司以上、及諸國一分、皆謂之史生、書生
之分注、長官（守）五分、次官（介）四分、判官（掾）三分、主典（目）二分、史生一分之
義也、諸國醫師博士陰陽師等一分之例」職員令ノ上、國司「一分名者任諸國
史生一之名也史生謂之一分」

いちまき　一巻　（二）
（集二部　巻）
（三）
巻物、繪ノ一巻始終ヲ連ネ（　）話ノ顛末、
院本、及氷翁日、中「平野屋小ぜん一まきノ話ルモ風ク哀レナリ、（三）轉ジテ、一切、

（院本、文政頃世話、下「娘ハリ」豊島屋ノ事ヲ外ノ掛ケ一まき」

（三）親族ノコトデ、ちまたトモ云フ　此後是ノ再聴ニルベシ

いちまつ　ぢんぢ　「弁松」

いちまんどばら　「萬度枝」（かぎばらノ傍ノ巻）伊勢神宮ノ御鎮ノ数秘ミテ

樹ノ枝ニ御札ノ代ニ御被箱ニ入テ　歳暮ニ　諸国ノ家々ニ配リシモノ、（三）遠ノユキワタルヤ

王安石詩、南来一味涼

いちみ　「一味」（一）ヒトツノアジ　一品、一種、薬ノ味ニ云フ「甘草一味」

（三）同ジ趣味、一様、涅槃経「如来ハ一味、猶大海水、唯一鹹味、遠ノ潤ヤ、「一味ノ

いちみやあめ　「一味雨」遠ノ一様ニ潤フ雨　（涅槃経）

（二）仏教ニ仏徳ノ一味ニ喩ヘ　（法華経）諸草本名　得生長ス　大木ハ九、雨ノ物ヲミ思ヒノ家ヲ出デテル一味

ノ雨ニ潤ヒ　ヒトシク　謡曲、現在七面「ヨヤ一味ノ法ノ雨ヒトシク注ガ潤ヒ」

イチマラ　あし　「銀杏胆」　胆ノ脚ニ先ヲ末廣ク銀杏ノ葉如ノ作リタルモノ　蝶脚、

イチルヒ　だいこん　「銀杏大根」　大根ヲ薄ク輪切ニシ　ソレヲ十文字ニ切リタル一片、形銀杏ノ葉

いちりんざし　「輪挿」　小キ花瓶ノ二三輪、花枝ヲサスニ用ヰルモノ、

いちりん　「一輪」　皇キキノヒトツ、「一輪ノ明月」　「梅花一輪」

いちろくぐや　「六屋」（一ト六ニテ七（質）トナル）　質屋ノ異名、（六、銀行ナドモ云フ

いちろくぎんかう　「六銀行」　一六屋ノ作ヲ見ヨ　役者丸髷（延宴）「身ノマハリマテ（六、屋（オクリ）（弥生記、下）

いちわり　「一割」　十ノ（割）ノ作ヲ見ヨ

いちわる　「意地悪」　意地ノ悪キヤ、意地ノ悪ノ作ノ見ヨ

いちる　「一糸」（ヒトスヂ、「一筋ノ望ミアリ」　絲

△四のうの「為」
嚴咒詛

いつ[ママ][ママ][ママ]

[ママ]

[ママ]

いづさいるさ 出入（あきさきさ）語幸ヲ見ヨ）出ツル時ト入ル時ト、

大木三十「モノ、フノいづさいるさ枝折スルトヤトヤトヤリノムヤムヤノ開」

いつかりとらん（副）イツノヤマニカ知ラヌニ、思ハヌニ「いつかりん花ガ咲イタ」

いつかう 一更（更）侍ヲ見

いつかく 一格 別ニヒトツノヤリ、一法、「語法ノ古キ一格」

いつかせん 一家言 オレ一ニ一家ノ談自ラヤリノ論

いつか 一人（かいと読ム）ヒトリ、一人、大学「有一人之臣」無他技」

集註「如古賀反」

左傳「一人行李」注「一人獨使也」

舒明紀「非一人之使」「重臣等而教貴」一人ノ書生」

いつかい 一介（いつか）侍ヲ見

森むつや製

祖源空ノ弟子善信

いつかうせんね 一向専念 ヒトスラ念仏スル「無量寿経」「一向専念無量寿仏」

寺僧

いつかう 一向宗 無量寿経ノ意ニ取ル」仏教ノ一派、浄土宗ノ中ニ分ル、親鸞聖人ノ開ク所、浄土宗ト大差ナケレド無量寿経ノ新解釈ニ依リ、専ラ念仏ニ対シ唯ク仏教ノ理ニ基ク信仰ヲ説キ、礼念ヲ重ンズ（浄土宗ノ教ハ念仏ニ対シ）又僧侶ハ肉食妻帯スルヲ可トス

父ヒモ戒律ヲ持タズ信心以外一切ノ形式ヲ捨ツ他ノ一般ノ仏教ニ異ナルト因ル事

第五ノ一 是レハ東法燈明記（傳教大師作ト傳フレド不詳）ニ法ノ時勢ニ因テ移ルベキトアル旨ニ拠カト云フ子孫京都ノ本願寺ニ住職トシテ世襲ス後栖原氏ノ時第十代ノ顕如ニ至テ准門跡トセラル其長子教如（光寿）徳川家康ノ聴許ヲ得テ東本願寺ヲ建テ弟ニ西本願寺ヲ設ケ今真宗ト改稱

又、俗ニ門徒宗ト云フ

いっき 一揆 八、一ノ「揆」ハ「法也」

(二) 度合ノ同ジキヲ(一致)言フ。「先聖後聖其揆一也」孔氏國ノ書經ノ序

「雅言奥義、其揆一揆」

(三) 同心一致スル事 恩 「一揆」、治承四年十月八日、……「夫合一揆之力」

庭訓往来、十月「内蔵外蔵之一族合一揆者也」鶴蹠合象物語(文明)

「祇園林ニ一揆知音ノ衆、皆死出之山ニテ会ヒ、中島ノ攻落サズバ生キカヘラジ」

三浦ノ紋ヲ同ジクスル軍勢ノ一組、太平記三十ノ巻「五年ニ一揆ヒラ云ヒ、銘ガ一揆、四ツ一揆……」

太平記二十九ノ巻

(四) 二十八ノ巻「駿下野守白旗一揆ノ軍勢ニテ笠ヲ傾ケ」

8

(五) 三十五ノ巻「長野カ蜘蛛一揆一陣ニ仆ニテ誅ス」

重編應仁記ノ「吉ヶ花一揆或ハ桔梗一揆ナドニヒテ被仮ヲ同ジ侍ノ組々一手一手ヲ分チ定メテ其ノ所々ヲ一列ス」

(六) 土一揆ノ略(土民一揆ノ略ト云フ)土民ノ徒党ニテ蜂起スルモノ、後ニ略シテ一揆トノミ云フ 土民「百姓一揆」

(重編應仁記ノ)「(十日ノ夜)(十日ノ夜)(十日ノ夜)」

(十日ノ夜)(十日ノ夜)(十日ノ夜)

(十日ノ夜)(十日ノ夜)(十日ノ夜)

(十日ノ夜)(十日ノ夜)(十日ノ夜)

いつく　自四「齋」（「斎」ノ俗ノ字、いがき（斎垣）、ごし（斎屋）、はふ（祝詞）

斎ミ清マハリテ仕フ、斎戒ヲ祭ル、

古事記上ノ五十九、天照大神「此鏡者為我御魂而如拜吾前伊都岐奉」

神代紀上ノ三十四「号天孫所降」「万十九ノ三十六、「住吉ニ伊都久祝ノ」

いつく　自四「傳」（「前條ノ後脚」）大切ニ護ル、カシツク、秘蔵ス、

万十九ノ三十九「御接笠ニ貯ヒオキテ伊都久ニ珠ニマサリテ」

竹取、なよ姫ヲ「凡性ノカヨリテ出サズ、ハナヒ養フホドニ」

源楊貴妃「いきスエタマム姫君」

いつくわいき　一四長、一周忌、五巻鏡、十三、建久四年二月十三「迎旧院御一回忌」

いつくわいき

いかろ、ばらし　「向帽子」（みだうばらし（御堂帽子）ヲ身

森むらや製

いつくわい　「金」（二）一時ノヨリテ、凡素往来ノ月、是皆一時一金之品物、

當日當座之賞翫「用金宴樂」

（三）抹茶ノ茶金ヲモ一金トスル一時一金ヨリ起ル法ナレバ一期一金ノ意

三千貫度同じ主客父金ストモ人金ハ日金ハ昨日金ハ明日金ナレバ一世一度ノ

金ヲ思ヒ心ヲ書ヒテ客ヲ満足セシムベシトノ意ナリ　ト云フ　歴生ルベシ

いつくわい　「一括」　ヒトククリ、

いつかげん　「家言」　オシ一ヒノ説、自分ヤギリノ論、史記自序「拾遺補闕成一家之言」

いっけさく　「一毛作」　同ジ地ニ一年一度作物ヲ蒔ク　二度作ルヲ二毛作

ト云フ、ニマウサク、

いちまうさく　「一毛作」　ヒトケサク　同ジ

なけんじゃう 「見状」 證判状ヲ見ヨ

いっきょ 「一嘘」（誠文「嘘、大笑也」）ヒトワラヒ、「一嘘ニ附ス」「一嘘ニ値ヒセズ」

人ノ言ヒ掛ケ

いっけ 「一顧」 チラリトミルコト、「一顧ノ値ヒナシ」

いっこく 「一国」（一）ヒトツクニ、或ル国（三）国中、コゾリテ挙国「一国皆敵ブ」

いっせいいちじょう 「一国一城」 ~~「一国」~~ 原城ト箱崎ト本城「一国一城ノ大名」

（二）一箇国、又一箇城、其数ヲ一国一城ノ大名等ナドヨフ

（三）安堵ヲ堅固ナル「一国ノ鎮」「一城ニ拠テ固ムル意ナルヤト云フ」（橘守部氏ノ俗語考）

鎧ノ諸具ノ一ツヒトツヲ一交具、又裁ニ武ナドモ是レカ

いっしゅく 代、左要 「一縮」（縮ノ毛ヲ收縮マセル意カ）ノ着ル、（鎧ニ云フ）

太平記二十六ノ巻三位「只一人鎧一縮シテ徒ニ立ツテ」

いっしゅく 「一縮」（縮ル意）鎧、具足ノ異名 林逸節用猫本「一縮武者」（鎧武者）筆歩毛葉集「一縮」ノ注「具足」

いっしゅもの 「一種物」 いっしゅもの ヲ見ヨ

いっしん・アドヤリ 「一身」 「阿闍梨」（其身一生ノ義）宮、摂政ノ息ノ深度ニ受戒ノ後ニ宣下ノ阿闍梨ノ称 （入リマジリ、マゼコゼテナ）

いっしょくた 「一緒箇」（一ツタ箇ヨリ出ル意カ）あっちこっちの俗ヲ見ヨ」 物事ヒトツニ乱レルコト 混乱

いっせん 「一算」 十ヲ堅取リテヒトカヅ（ヒトツ）ヒトツ

日本紀異の
康保元年有
廿五日「星日祭
左近陣座一諸
卿有二種物一
奥島珠味毎
物一面種五ト」

いつき[竟]揖[井代揖]（揖ス音便、合ヲガス例）後ニ持寄雑肴

いつきもの 一種物 殿上人ナドノ各肴ヲ一種ツヽ持寄テ任官ノ所ニ出シテ酒宴ス

續世継、六、花散庭ノ面「殿上ノ一ト物」 續古事談、三、臣節部「タヽリ上達部、一種物ヲ具シテ参リ年マリクマヒケリ」

五ト、一位大将、鯨ノ鮨、鯖、椒、左右ノ脇肩、煮酒、雑子、雉一枝ニト

盃酌管絃アリ」

いつきのもの 一炊夢 ワヅカノヤメ 笑ヒタヤマキ高ヲ長ク

いつまん 一寸 （一）寸ト云フニ同ジ （二）少ク間、トサキヲ「一寸ノガレ」「一寸先闇」「一寸先陰」「一寸ノ虫」

いつきのーくわうん 一寸先陰 僅ニ光陰、ヒカケ 光陰、きしゃ、朱熹詩「少年易老学難成」

一寸先陰不可軽 太公

いつさいがつさい 一切合財（がつさいハがさいノ音便ニ重ヲ連濁ナシ）

一切ト云フニ同ジ、何モカモ、「いつさいがつさい持ッテ行ク」 経論律三蔵ノ故ニ

いつさいきやう 一切経 仏教ニ関スル一切集ノ名モノ大蔵経トモ云フ

天武紀下ノ「始写一切経於河原寺」 二十 六年七百七十巻、二年九十七巻

千四百三十二巻ニ

いつさいちん 一齋點 ちんちん（訓点）ノ伴ヲ見ヨ

甘散

いつさいしやじやう 一切衆生 教経、経、せいのうもの、衆ノ生物、

十切ノ衆生

いつさん 一産 （父ヒニ清白ノ産ヲ出ス） ヒトワラヒ、（一嬰ノ重産ハ不祥ノ事ト云フ）「一知半解」

いつし 逸史 史事ノ亡失シ、漏レタモノ

いつじん 何時時 イツ 何時ニ、何時ニ同ジ

いつぎ　何時迄　何時ノホド、イツジブン

いしん　維新　政革ヲ一新セルコト、專ラ明治元年ノ御政革ヲ五ツ御一新

大業　天命維新

うじやう　揖讓ノ誤讀、

うーしやう、えーなん　一唱三歎（二）一人唱ヒテ三人相和シ

礼記　樂記　清廟之瑟朱弦而疏越、一唱三歎、注、謂一人唱而三人和之

（三）傑作ノ詩文ナド　度詩ヒテ三度歌ヒ

いつしゅう　一生奉公　奥方ニ仕ヘル女中ナド奥方ノ身ノ傍ニ居テ仕ヘル

ろーとやせんり　一鴻千里ヒトナミニ千里ヲ走ル（急流ノ小舟ナドニ）

刎ル　身ヲ斬ル者ヲ罪ニ問ハズ　刑スルヤウリキ又

いちぜん　一錢切　一錢ヲ切ル、切捨ニ

一錢ノ盜ヲ斬ル　又一錢限　沒收ストノ説ニ出典ノ文ニ合ハズ

室町時代ノ末世ニ行ハレ　斬首ノ刑ハ名、稱多クコレヲ

士ト云フトモ　嚴禁ヲ犯ス者　斬ニ　最下等ノ斬首ノ刑　兵

斬首ノ刑ニ　主ニ浪人ナドニ　斬ル　庶人ニ　徳川氏ノ

斬罪　斬罪ト云ヒ　稍多ク非人ナド　（類聚名物考刑法ノ記ヲ參取ス）

信長記ノ下ニ　信長　於法中法外　上下ミダリガハシキ事アラバ一

錢切ト御定メアツテ云ヒ　清正記、二太閤ノ加藤清正、與ヘ高麗軍中ノ

制札　重勢ノ味方ハ乱ル　狼藉ノ者ハ一錢切ノ者（中略）天正二十年

正月　朱印　制札　數土民百姓自分

非役ノ者ハ一錢切ニ天保十二年九月日（青木文蔵）

採牧文書、松屋筆記八十八）

いちせんぎり「一錢刹」（貨一錢ニテ刹ル（月代髪ヲ刹ル）結ヒ髪ナリ）

髪結ヲ業トセシ者、稱一文刹、一錢職、昔ハ上下スベシ

我衣（文化）「髪結ノ初、寛永ノ頃ニ、江戸ノ初、赤羽根ノ床最初ナリ、其頃、ニテ一文ヲ下ス」（雞肋雜志）「凡毎所有結髪床一ニ巡市中」

取錢（刹月額ヲ謂フ）「錢刹」髪結由緒書ニ北小路藤七郎ト云フ浪人

三河国原村ニテ徳川家康ニ拝謁ス奉リ金錢一文ヲ賜フ（一錢職ト云フ）

府ノ後ハ来リテ一錢職ヲ世ニ由ヲ記セリ（婦人笑覧一）

其時代ハ一錢刹ノ事ニ拠ル

10 表むらや製

いちえんだめし「一寸試」（ホトニ三ヒ分トシテ個カキ）

人体ヲ寸々ニ試ミルト、一分ダメシ

いっせいっちげん「一世一元」天子ノ一代ニ年號ノ一ヒトツルヲ、古来天子ノ一代中ニ数度年

號ヲ改メタルガ文和ノ明朝清朝ニモリテ一世一元トナリ我ガ邦ニテモ明治天皇ヨリ一世一元ト

なリタリ

いっせい「一齊」トンナトソロフ

いっせん「一洗」コヒグク洗ヒナガラ、陳キ出ルヲ「目醒し」

いっちゃく「一寸足」コマタニアエムヲ、ギザミアレ、滑路ナドニテ足ノ一方ニカヤンダ時

大股ニアユメバ西足ノ方ニカナ吟ズベシ（浅草庵蒙話）

ろせん 「一銭」 銭一文ハ、「茶一服一銭」「一銭剃」「一銭切」等

いちもんぜう 「一文剃」 いちもんぜう 一銭茶屋

いつせいしよく 「一銭軽」 いちもんぜう 同上

ろせんぢや 「一銭茶屋」 一服一銭ノ茶屋、寛文二年正月十九日四綱「葺屋町川岸端ニ四軒在候一銭茶屋ニ向後置申間敷事」（徳川実紀三ノ一〇）

ろそうりう 「一唱流」 能ノ笛吹ノ一流 天正ノ頃ノ中村一唱ヲ祖トス（近代世事談〇〇）

ろそくいつぽん 「一束一本」 僧侶ノ礼物ニ云ヒシ言葉 一束ハ扇子一本ト定マレリキ 無代ノ本ヲ云フカ 一束一本ノ習ヒ三井家ニ用ヒ 明治十七年正月廿四日ノ条ハ神ノ供物ニ拝殿ヨリ一束一本参ル」

（温故叢誌三ノ一〇〇 人名辞典考異表）

（三）又銭ニテ金銭、

いつせき 「一跡」（跡後嗣ノ義、跡目ト云フ事ヲコヽヨリ出ヅ）

（二）系統、家ノ肝ノ必キ 太平記〇〇の「大家ノ一跡此時断絶セント勿体ナク候」

（荘言記子盗人「家一跡甲ニ及バズ女共ガ身ノマハリマデ打チラシ質ニオキ」古郷帰江戸咄（真言）「主親ヲ倒シ一せきヲタヽキアゲテ」（萬治）

（三）特ニテ、身代、財産 東海道名所記、土「山ノ神ノ目ヲシノビ一跡ノ名

いつすんど 「一寸戸」 戸障子ヲ開ケル二幾寸カ開ケテ残シテ出ル、下部ノ一寸戸、下衆ノ寸ナド云ヒテ、マサキフルマヒトシテサシタ、

いつせう 「一宵」 一夜、一夕、

いつまる 「一穂」（尖ノ穂如キ意）ダヒトツノトモシビ「一穂寒燈」

いつじん 「逸人」 人ノ逸ノ下ナドニ用ヒ、世俗ヨリ逸シタル人、世外ノ人ノ意

表むらや製

ゞゝ、ゞゝ 「出雲琴」八雲琴ニハ、二絃琴、

いつゝゝ、やまず 「五本柳」陶淵明ノ五柳ノ文章ニ

門辺ノ柳木、一ヲ二ヲノ、ゝゝ 「我ガ門ノ以都母等夜奈利イツモイツモ」

夫木、三、吹ノ風ニイト乱レタル我ガ宿ノいつもと柳立寄リテコソ見ル」

陶淵明 門辺五柳 ミヽズヘ入ル

森むらや製

いつせつ 一切 さいハ誤トシタリ

一切 時 さいまつ 真異ナリトオモフ

（如ニ勞 勤苦 不顧 長短縱横 此義ニ因テ名セツノ所ナリ）

（行基 用ナカ）

筆用集 一切イセツ

いつたつ さんらい 一カ三礼 仏像 木像ヲ造ル ヒトキザミ 毎ニ三度ヅヽ礼

拜 ヲ 礼 非常ナル 恭敬ノ心ヲ表ハスヨリ 仏経ヲ 写スニ 一字三礼ト云フアルモ

コレニ同ジ 「伊師集」 一カ三礼 ノ 尊像」 吾妻鏡 六、文治二年 十月 「一字三礼 今

書写 如法経」

いつちきせん 一直線 （二直線トモコレニ同ジ） マツスグ 真 一文字

いつちきのを 五体結 ちきのをハ 曲カネズ

いつちは 一致派 日蓮宗ノ僧ヲ見ル

森むらや製

又重袴トモ云

いつつぎぬ　五衣　女房装束ノ最モ重キ儀式ニ着用スル礼服　袿ヲ五枚重ネテ着

（後ニ重ネタル女ニ一枚ニ仕ル）　何モ同ジ色ニ裏ハ紅ノ平絹ナリ　表ニ唐衣ヲ着ル腰

ニ裳ヲ付ケ　扇ヲ持チテ礼式ニ成ル　男ノ束帯ニ准ズ（五枚　袿ヲ五枚重ネタルモ五衣ト云

フ俗ニ十二単ナドモ云フ）又色カリトテ五枚トキニ異色ナルモ多シ　其異色ノ名ヲ裏ノ

色目ト云ヒ種々ノ名目アリ

平家十ノ巻ノ句　那須ノ与一ガ句　歳十八九バカリナル女房ノ色ヒ柳ノ五衣ニ紅ノ袴ヲ着テ云ヒ

多分

書附ノ音信　イヒツカヘ

御書所　御書所ノ條ヲ見ヨ

ゝぼんざしよどころ

ゝぼんざし　二本差　二本差ヲ見ヨ

ゝぼんぎ　一本笠　無性ノヒトスガミテ情実ナドナキ　直情径行

ゝぼんきち　一本松　ヒトモト生ヒ立ツル松　孤松

ゝぼんでらし　一本調子　（一）歌ノ調ニ抑揚ナキ　単調　（二）事物ノ変化ナキ　所作ニ曲折変化

ゝぐん　ゝつきり　一途　ガキリ　俗訛

ゝぱ　（白）　言ふはノ急呼　話四羽ニ「ソレトナクノ天トゝぱ」ニ神出世ノ古ヘ　十万世界ヲ

定メシモ　北條五代記ノ鹿島ノ住人林崎甚助ノ兵法ヲ学ノ初段奥義トゝぱ

チニカヒトナバ如何ナルモ長キヲ用ベシ勝ツコト一才堪シト法ヘタリ」

ゝぱんぐば　一本道　下駄ノ歯ノ一枚ルモノ　高ク作リテ行者ナドハク

いっぱん 一飯一度ノ食事 史記、范雎伝「一飯之德必償」

雅言集覽「一飯ノ言トツケイ」

いっとこち 一所地 八地ノ意ナキ助語 的ノ條ノ見ヨ

（別）（下ノ畏字ハ衍ト カドイツカド 宋史蘇軾伝、軾以書見歐陽修修詩別ニ致ノ字ナシ）

梅聖愈ニ曰吾當遇此人出一頭地上ニ

いっのまに 何時間 何時カ知ラヌ間 万葉ノ「カクロキ髮ニ伊都乃麻乃霜」

ノ陰リケル 新撰集「吾妹子ガ狩衣ニ文ヲ移香ノいっのまニ染ムベシカム」

いっぱん 一品 品ノ條ヲ見ヨ

いっぽ 一歩 三尺ヲ云ヒトアシ

（三）一坪、

森むらや製

いっぱいのあらそひ 鷸蚌之爭 戰國策、燕策ニ蚌ガ曝シ居タレバ鷸其肉ヲ啄ム 蚌合ニ其嘴ヲ拾ム 相爭フ間ニ漁者併セテコレヲ擒レリト云フニ因ル

二人、利ヲ爭フ間ニ他ニ横取セラルル

いっぷくいっせん 一服一錢 (一)路傍ニテ一服茶ヲ供錢一文ニテ売ルコト 文安年中

ノ七十番職人歌合ニ一文一杯、売「立ル茶ノ香ハ清ケレトモ一セニカフル命ナラバヤト」 茶ノ泡消ヤカヤカ敷抹茶ヲ椀ニ圓顧ノ者ノ地上ニ席ノ敷ヲ坐シテ

茶盞ニ茶筅ヲ茶ヲ点ル 東海諸國地、路傍買茶ニ蒙茶行人投ニ

一錢一飲一椀 後ニ煎茶ト云ヒ寛文中ニ江戸一錢茶屋ト見ユ其逆ナリ

(三)路上ニテ烟草一服一錢ニテ吸ヒ呑ムヒトリ 八水隨筆(享保)「多葉粉云、予ガ

又幼年ノ頃大坂高麗橋ニテ唐人煙草ヲ売ニ同人、竹ノきせるニテ一文一錢ニ

ニテ人ニ呑マセタル由云ヒ」

いつーぶん 逸文（二）（文書中ノ一部ガ脱ケタル） 脱文 脱ケテ世ニ逸シタル文

ゴーベ 巌蓋 「ゴトヘト俳ノ基」 神ノ祭ニ供フル土器、多クハ形徳利ノ如クニテ

胴図ノ脚ハ酒ヲ盛リタル（シ、イハヒベ、イシベ、神武紀ニ「……巌蓋……」

巌蓋此云二伊逢瑳一」 出雲国造神賀詞「伊都閉」

ゴーヘ 何方 何方 ヒ 雷 ヒ 万十九ノ歌 「ホトトギス 伊頭漸ノ山ヲ鳴キカ越ユラム」

ゴーペン 一変 ヒトカハリ、全ク変ハル 「時勢、昔ト一変シテ」

ゴーペン 一巡 ヒトワタリ、ヒトメグリ 「巡回一巡シテ」

ゴーベン 一返 ヒトカヘリ、ヒトタビ、イチド 「一返会ヒタル人」

いつーみん 逸民 世俗ヲ脱セル人、逸人、詩酒徽音等「逸民伯夷」 叔齊

説カ

後世継ニ 今ト迄ニ先アリト云フ迄ナリ ガレテ云フベカヘタシ

好逸英邪 ジロニ云フ

いつーていじ 一丁字 一ツノ丁字、「目無一丁字」「不知一丁字」ナド云ヒテ文

盲ナルコトヲ云ヒ、唐書ニ「挽洒石弓不如識一丁字」 丁字 洪邁曰、乃、

今字、非丁字ニヨリ一箇字ヲ知ラズ意ナリト

いつーきゅ 一級 一級（級）俸ノ見ヨ

いつる 飯綱 信濃国カ戸隠山ノ頂ニアル神ノ名 天狗ノ陀祇尼天ヲ

祀ル、天狗ノ祇ニ跨リタル像ナリト云フ 俗ニ陀吉尼天ヲ祇ニス 其霊ヲツカヒテ

妖術ヲ行フヲ飯綱ノ法ト云ヒ ゴるつぶト云フ きねつぶ、類ナリ

良徳 猫吟百首（貞永）「月影ノ長キカノシラハトリ」 夜ヤゴる、法ノオコナヒ」

いつーぺき 一碧 海面ナドナミナベテ青キ「一碧萬頃」

○一杯喰はす。（酒ヲ飲マス、飲ヲスル意ニ用ヒル）

ダマス。アザムク。

一杯喰はす ④ヤード

「満」（一杯ノ義）

いっぱい（副）「十杯」（一）満チテ溢レズ、十分ニ「袋ニいっぱい詰ッテ」

（二）アルカギリ、アリタケ、「精いっぱい働く」「力いっぱい出シテ」

いっぱいきげん「一杯機嫌」少シ酔ヒテコロヨロ、微醺？

いっぱう「一報」一度ノ報知、「しっぽう待ッ」

いっぽうぐち「一方口」一箇所ノ出入口

満タシタル「満酌」「一杯ノ酒」

「飲ム」「一杯機嫌」（三）二合五勺ノ稱（仙台）

「いっぱい」

（空いっぱい雲ガ出テ「今年いっぱい勤メテ」）

いっとき「一時」（ヒトトキ）「ひとときノ湯治後、一手ニ、一廉いっかど」

（二）ヒトトキ、一時間（チトセサ）（往時ノ一時ハ今ノ二時間）「いっとき三里」

（三）トハシ（チョットノ意、サンジ、少時）

（自尊心）

性言況、貴殿「いっときも置カヌ、オヤ（リヤス）」

いっとき者、おん「五所紋」着物羽織ニ家ノ紋ヲツケル、背ノ中央頂ノ下ニ一所、左右ノ袖表ニ二所、左右ノ肩下ノ前ニ二所、染メ出シ、これモ、肩下ニナ

（五ツ紋）（イツトコモン）

キヲ三所紋トモ、▲代男（天和）四「紋所ハ銀ニテ、ほりヌキ五ツ所ノ光モ」

いっとう「一調」素謡ニ楽器一ツ入レテ謡フモノ、下鼓ナルカ常トスレド大鼓ノミ

ナアリ、太鼓ミナルアリ（仕舞又「難」ノ見ヲ見ヨ）

いっぱい 一杯 (二) 杯ニ酒ヲ注ギ満タシタル 満酌 「一杯ノ酒」

(三) 少シ酒ヲ飲ムヲ、一杯 小酒 「一杯飲」 「一杯機嫌」 (三) 二合五勺ノ稱 (仙台)

(四) 満チテ溢レキ 「入書ハ百回ノ一杯ナリ」

一杯喰はせ ④ ナード

満 (一杯ノ義)

いっぱい (副) 一杯 (一) 満チテ溢レズ、十分ニ 「袋ニいっぱい入レテ」 (満)

(二) アルカギリ、アリタケ、「精いっぱい働く」 「力いっぱい出シテ」

いっぱいきげん 一杯機嫌 少シ酔ヒテコロキフホロヨヒ、微醺 ?

いっぱう 一報 一度ノ報知、「一ノ待ツ」

いっぽう 一方口 一箇所ノ出入口

いっとき 一時 (ひとき) 湯掬、一手ニ、一掬ノ湯

(二) ヒトトキ、一時間 (往時ノ一時ハ今ノ二時間) 「いっとき三里」

(義内ニテ)

(三) チョットノ間、サンジ、少時 「自分ノ守ノ寺ノ一時ノ特ノ下ナリ」

狂言ニ、貴殿「いっときも置カヌ、オヤ (リヤス)」

いっとき染め 着物羽織ニ家ノ紋ヲ染ムルニ背ノ中央頂ノ下ニ一所、左右ノ袖表ニ二所、左右ノ肩下ノ前ニ二所染メ出シ、これを「五所紋」 五紋 イツトコモン

キヌニ所紋トモ、▲一代男 (天和) 四 「紋所ノ銀ニテはぜ切リヌカセ五ツ所ノ光ニ」

いっとう 一調 素謡ニ楽器一ツ入レテ謡フモノ、小鼓ナルヲ常トスレド大鼓ノミ

ナルアリ、太鼓ニナルアリ (仕舞又囃子ノ見ヲ見ヨ)

いつとう 「一統」(一)

文邦ニテ帝王ノ業諸侯及ビ四夷ヲ一ツニ統轄シテ其上ニ立ツ。公羊傳ノ初ニ「何ニ言ハ平王ノ正月ト、大一統ナリ」ニシテ一統シ君ヲ正統ト云フ。其位ト閏位トヲ魏蜀呉三國割據時ニ魏ヲ正統トシ蜀ヲ閏統トスル論アリ(三國史通鑑)又蜀ヲ正統トシ魏ヲ閏統トスル論アリ(晉春秋、通鑑綱目)我ガ邦ニテハ系統ノ義ニ用ヒテ系統ノ正ニシテ正統トスヒ坐ラサルヲ閏統トスル「神皇正統記」

(二) スベテヒトツニ 一國ト 平等ナル

一統皆為郡縣 「天下一統」(通說)

そうぼう 「一抔」(一掬、漢書、張釋之傳、假令墨民取長陵(高祖陵)一抔土)

陛下且何以加其法乎」(唐、駱賓王討則天武后檄「一抔之土(高宗陵)未乾六尺之孤(安社)」

そうつれ 「疲」(伊豆都志傳)

(約しず)(疲倦)

(董書、濁酒、疲倦)

(約しず)

(疲倦)

(疲倦)

(疲倦

ヤードノハいつつしのこと多くと出ス

いつつのをし（金巻）文字読　丈本三寸六「人舞ニいつつのをしへ絶エテヌ神を併せ何ヲ寿ぐし」
（五教）（五教）

いつつもん　五紋　いつとさもんニ同じ

（或ハ伊豆ノ手人工匠ノ造ル種々ノ意）

いづてぶね　伊豆手船（伊豆様義、伊豆形義ニ）（ニ蕃様、奥手、中手（猫）同様）

伊豆国造船（ル形）船（八雲御抄）一種ノ造様アリシナルベシ　建治元年十月「科ニ伊豆国ノ造船ノ長十丈」ヲ三十人ノ「防人ノ堀江漕ギ出ツル伊豆手夫祢」同三十八ノ〇〇

「堀江漕ぐ伊豆手ノ船」

いづとう　二筆　筆ノ使ヲ墨

伊豆ニ造船ノ事出ルニアリシ名ナリ　枯竹船ニ元ベ、カブ、

森むらや製

いとこ　「従兄従弟」（前條ノ注意ニ同ジ　吾カ子ニ次ギテ最モ愛憐シケレバ云フ）

父ノ兄弟ノ子　母ノ姉妹ノ子　母姪ニ同ジ

父ノ姉妹ノ子女ヨモ云フ　外従兄弟姉妹　今ハ母ノ兄弟姉妹ノ子女モ云フ

手名抄三ノ十七「兄之子、八弟之子、相謂為従父昆弟姉妹以此古」

いとうと　「従兄」（おどがたり　あどうがたりしりさしりうごと例）

いとこノ延　源氏物語「大和守いとうと（落葉ノ宮ノ御従弟少将トシテ女房）

いとこじろ　「従弟」　いとこに同じ

いとこよみ　「従弟読」　ひざしよみ（百姓達ノ使ヒ易キ者）

いとしご　「愛子」（愛しき、婚シ後ト同様）愛嬢ニキ子、狂言記　誰カ文浮イタ

（ヲ盗人「いとしご」デコボルヲ）

ゾウアーのたぐひ「五種物」たるものの集

ゾウつめ・にぎり　五濁文字漢　深草生ノ「ゾウ」ノ「ゾウ」ノニ特深キ世ニドテ生マレタヤドケム」

ゾウアのもの「五物」（二）五種ノ譯語　佛者教ノ四ツノ人ミ伊豆ノ文字ヲ集メタル中ヲバ思ヒスツベシ」（三）カードヒ

ゾウアのをし（五老）文字法　大本三十六「人舟ニゾウのをしへ他ニテ神ヲ佛モ何ヲ宗ニ」

（五教）（五者）

ゾウもん　五紋　ゾウとろもん ニ同じ

ゾウてゐね　「伊豆手船」（イヅテ）（伊豆様義、伊豆形義ナル）（ニ）蕃様、奥手、中手（稲）同紙）

伊豆国ノ造ル船（雲州抄）一種ノ造様アリトテルベシ　建治元年十月「科ニ伊豆国ノ造船ヲ十ノ人」「防人ノ堀江漕キ出ル伊豆手大神」同二十ノ〇〇

「堀江漕ク伊豆手ノ船」

ゾウとう　二筆　筆ノ使フ墨

伊豆ニ造船ノ事出外ニモアリシ　枯枝船ニ云ヘバカラ

いとこ　「従兄（従弟）」（前條ノ注意ニ同ジ　吾ガ子ニ次キテ最モ愛情ラケレバ云フ）

父ノ兄弟姉妹ノ子　外従兄弟姉妹　今ハ母ノ兄弟姉妹ノ子ヲモ云フ

手名抄ニノ十七「兄之子、八弟之子、相謂為従父昆弟姉妹以上古」

いとうと　「従弟」（おとがたり　あどうがたり　ぢとうがたり　ぢとうがたり　ぢとうがたり　例）

いとこノ延　源氏物語「大和守ノいとうと」（落葉ノ宮ノ御従弟少将ト云フ女房）

いとこじろ　「従家子」　いとこに同じ

いとこよみ　「従弟読」　ひぞとしぞ　ぢとうよみ（百姓達ノ使ヒ言葉）

いとしご　「愛子」　愛ラシキ子、妻ト深ク同格　愛嬢キキ子、狂言記　誰カ又浮イタ

（ヲ遣人ノ）ことしゴデコザルヲ

いとしらし　形ニ　三変惜　イトヽキヤスキリ、イトヽカユラン

いとーしん　絲心　絲ノ心トシテ芯ニル蠟燭（とうしんヲ心トシタルニ基ス）

いとまがし　絲透　鐵鎧ナドノ透間ノ極メテ細ク透シタルモノ

いと　暇　間隙　イトヤ、「いと無し」（其餘ノ暇）伊豆國河津ノ俗謠「男衆ナラ、河津ノ川ノ流し来ル水、止メテ見ロ、止メテ見ロヨウ、マタタク、いとヽ、河津三郎、顔ヤリテ、駿河国ニテ「顔食フいときナイ」

いとーぢみ　絲墨　スミナハ、サケズミ、かた言（廓言）「番」　区ノ糸屋ヲ高キ処ニ置キ、ヤラ物ノ手ヲ入スルヲ見ル云ヒ

いとせめて（副）最迫　甚シク迫リテ、セツナク、ヒエツナク、セワツマツテ

ヽヽ　いとめて　急キ、ハヽ

森むらや製

息止ノ義ニモアルカ　息ト休ムト

せむ（迫）ノ條ヲ見ヨ

夕暮ニ公安ニ

いとー　絲結　（一）凡帳ノ所ニ懸ル緒ノ結ヒテ垂ルヽモノ、重ネ

空穂、箭ノ使ヒ　箭ノ紐ヲ結ヒ

少女ノ着ル時ニ、袖括ノ緒ヲ結ヒ

（二）紐ノ結ヒ　絲結ヒ　花むすびミヒモ

言ヒツヽス（ツヽヤカニ言ヒ）

（文学注ニ出ヅ）

絲結ノ項ヲ見ヨ

いとーもとり　（三）絲結ノ結ヒ　絲結ヒ

絲結ノ結ヒ　絲ヲ倒ニ湯桶ニ入ル

凡帳ノ絲結ヒ

絲結ヒ　絲ヲ倒ニ湯桶ニ入ル

かげろう（陽炎）三月ノ末ニ、陽炎ノ立ツ時ノ空ヲ、ドムクテ、ナキ、アツブいとめ

車ノ糸ヲ「霞晴」ノ空ヲ、中特ノ男ニ、ナキ、ヤ

いとさん　幼児結ヒヲ見ヨ

いとさんむすび　幼児結　女児ノ髪ノ結ビヤウノ名　ねさしべらしニ同ジ（大坂）

いとばな　絲花　はるむすび（ヒビヤヒ）

徳川幕府ニ献絲花紙アリキ

いと　絲　糸字ヲ書ク

書名ニ線ヲ引クベシ

いとあや　糸綾　（灌頂ニ陽炎ヲ糸綾トモ云フ）文字法ニあそぶことヲ云フ　几帳ノ絲結ノ浮世ニテ垂レタルニ寄セテ糸綾ト云フ　（糸綾）

かげろふ（陽炎）ニ同ジ　朗詠集六、霞晴レ絲ノ空ニイドケテアルカナキカニあそぶ

いとあや　長唄　仕正歌「空ゆく見レバ春ノ日暮ノ大空ニ雲雀ト共ニあそぶいとあや」

二首目歌ニ「どかん夕日空ヲ眺ムレバ浮世ニあそぶいとあや」　狭衣一上「いとあやかなる中将ノ君ニ打チカケテ」

いとわつぷ　絲割賦　（賦或ハ符ト云フ）　江戸時代、支那ヨリ長崎（輸入ル生絲ヲ特許商人数人アリテ割賦ニテ売ヒ、一九年ニ、一斤ハ百六十匁合八百目ヲ一ヶ年ノ国内ノ織布後ニ売リ度キ者ハ長崎ニ出張シ秋京堺、長崎ニ十数人ヲ置キ後ニ京一人伏見一人堺三人長崎五人ト定リ居リシ　寛政明和ニ至リ国内ノ

製絲業盛ニ成リ紅梅千切（手慰）「イボリ又ハ糸巻仲ニ
利ノアリテ繁昌シタル長崎ノ町」
いとをし 絲織 錦ノ絲ニテ織シタル織物
いでぎぬ 出衣 出ばえノ袿ヲ見ヨ

（一）アヒダ、アハヒ、（二）スキマ
間隙
天木ニ冷ル
吹上ニシテル
玉柳、枝ノ
はゝ見えず去
「此絃ノいとまい
いとあつかひ
ミヲベ
暇

いとま 暇 暇ノ御義
（一）事ノナキ時、閑暇、万二十ノ四十八「夜ノ伊乃末ニ病ム上ケコレ」字鏡 一
暇ヲ暇ヲ暇ヲ、暇暇空穂、たゞを
「暇、仰止万」（二）官人ノ時ヲ定メテ暇ヲ暇ヲ暇ヲ

いとまき・まうさ　自四　「暇申」

竹取「朝廷ニ御暇申シ給ハ国ニ帰アニマカラムトテ、とまの(二)ヲ見キ」（マカリマウス）

(三)別れを告ぐ、敬語　畠作代ノ中ノ「手紙書敬者敬語」

畠清草子（室町時代）清水坂ニ討手「いとなまうしラサンバトテ天井ニ

アガリ云ヒ」

いとまきのたち　「絲巻太刀」柄及ビ帯取ノ下ヲ絲ニテ巻キタル太刀（雑川考）

康富記、康正元年「絲巻御太刀被下」（細革ヲ用ヰタルモノ）

いとまき　「絲杼」　杼ノ拙目ノ極テ密ナキ、

いとみち　「絲道」三味線ヲ弾ク撥人差ニ弾キ得ルヤウナリシ「絲道」ガ多ク云フ

いとつめ　「絲爪」三味線ヲ弾ク人ノ左ノ人差指ノ爪ノ尖クネミ、絃ト撥トヲ生ズルヨリ

ハデキタルモノ

森むらや製

いとぐち　自上一　「出尾」出デ、居ル、端近ニ出デ居ル

竹取「竹ノ内ニ、「住者ノ岸ニ出居ヲ」竹取、かぐや姫「青ノ望ノ月ニ出デ居テ物思ヘルケレキヤリ」

いとぐんけぢん（名）詩経ノ註ニモ其長ノ傳ヲ「傳」ト云ヒ（傳ノ信イ）ニ郵亭ト等ヲ

いとぢん　「絲印」（絲巻印ノ異ナリト云ヒ）室町時代中世ヨリ江戸時代ニヨリ明国ヨリ

輸入セル生絲ノ絲束ノ中ニ義メテ置リキリシ銅印ノ名、絲ノ包紙ニ其印ヲ押シ諸

取扱ニ押セリト云フ　錆物ニテ皆朱ヲ用ヰ木小者ヲ単像稜線ノ面ノ方、四五角

八角、鈕ニ重物其他種々ナリ文字ハ篆、隷ナド違フレド多シ封信守愚又ハ孝悌

忠信ナド注ニ用ルモアリ熱田社所伝ノ開白二十ノ周囲ニ書ル南山福如東海

印を絵印ナルベシト云フ

いとしき青ばんだ 雑竹図る（ちんさ 知り本を筆ト軸ホドニ作リ絵ヨサトトモ輪切トシタモノ）

いとく 「慈德」「ロの「慈の也」」優ヒ善キ德

いとほし 「伊乃古」「愛」（いとほしく愛惜シ子根ヲ入ノ稚ル後 姓ヲ夫ル男ノ子）

夫妻又ハ親戚ノ人ノ互ニ睦ビ呼ブ語

古事記上ノ巻「伊乃古ヤノ妹ノ命」ノ歌ニ「伊乃古 汝夫ノ君」（夫）

金俗歌、知々夏々 伊止古兄ノ河ヲ謂度ヲ提ゲテ（親戚ノ人）

神楽歌 「御稲搗ク女ノ好ササヤ云ヒ伊登古夫ノ真伊登古夫ヤセ

ムヤ」（夫ニセヌカ）

いとホーせ 伊乃古ノ俗ノ見ヨ

いとしし 形一 「し」強ノ指ス語 「盛衰記」「あられもなし」

最取ニテ言ヒ難クモナシ 格別ニモナシ 雑内侍日記下「いとしもなき先祖引キ出テ申ス」

いとしき 「動姫」 「八おと姫ノ同意」 紀ノ姫君

いとほし 形二 「紫式」「八たはしノ様、いきだはしいきどほしし」

（二）イタハシイタツガハシ 「大鏡東」 建仁三慶雲四年冒記「朕ヲ駑ヲ川仕ヘマツル事

重ニキ 紫文章ヲ思ホシヤス」 同 記「憶ヒミ伊等保自ミナモ思ホス」

同 二十三記「天ノ下ノ政ヲ聞コシメス事ハ夢ヒキ重ヲ事ニアリケリ」

「訓」「万葉」「丈夫ノ事 紫ヒミ父母ニ別レテ

（三）他 紫普ヒキ 「痛シ」「悲シ」 「新撰字鏡」「痛ビ、ヒ」 崇峻紀ノ

（ヒ）ヒ

「イトホシガリ給ヒテ
哀不思議」カナミノ。「誰ガ心ニ夢シキカモ」竹取「羽ヲいとほし悲シトボ
シル事モ失セヌ」（三）聯ビテ、イトシ、カハユシ「可愛」「横」上「チヒサキ子
ドモノいとほしゲナルヲ大人ニツクリテゾアリケル」手代男！（貞享）「いとほしき
[illegible]ヲ見テ、[illegible]世間ハ」空猿、俊薩「いとほしゲナル子ノ大キナル川
ツミニ出デテ[illegible]」

いとみみを　絲蛇　蛇類ノ類ニテ極メ細ク赤キモノ、
清キ泥ノ中ニ棲、指リニ金魚ノ餌トス、アカズ

いとむ　ルルルルレ　化セニ　射止　射殺ス、「狐ヲ遂ヒテ射止メタリ」
矢ヲ射テ中テ殺ス

いとみみく　絲脚　絲ノ一端ヲ病人ノ寸法ニ懸ケ醫師ノ脈ヲ他ノ一端ヲ持チ脈搏
ヲ絲ヲ傳ヒテ診察スルコト、且妻婦人ノ病ナドニ醫師ノ其膚ニ觸レ
「無ハサルニ元ヨリ」

いとや　絲屋　絹、木綿ノ絲ヲ紡ギ、織ナド為ル商家

凍ヨリ

いで、ゆ　出船　潜ギ出ツル船、出帆スル船、「デフネ」

いでます　自四　出座　（行キ来ル、居ル、三義アルナリ、いらしゃるニ同ジ）

（二）出づ、敬語、ユキナサル　社代下五「皇孫降行之社」

社代七ノ十二「天照大神之居所」

（三）行幸シタマフ　社代　「星輿車駕」　延汐代ノ「天皇幸近江國」
（宇治拾遺ノ「天皇親臨」）　延汐代ノ「天皇幸近江國」

（三）来ノ敬語　社代ヒ十二「吾天尊何来之地也」万ノ三十「闇夜
ハ歌ヲ来マサズ梅ノ花咲ケル月夜ニ伊而座左ジトヤ」

（四）居ノ敬語　万六ノ三十六「軽王ノ國ニ出座ハシキヤシ吾ガ夫ノ君ヲ」

（出居ノ）
（二）母屋ヨリ端近ニ出テヲリ
源博雲ノ
「例ノコトニ端近ナンデヲルドキモヲ」

△繕古事談ノ
「後三條院ノ其御時ニ
いでる御座ヲ
供御ハ参リケル」
江家次第ハ、
「左右出居少将
各一人、裏帽子
着出居座」

いでる 「出居」（内ヨリ出テ、寄居ル慰ノ居ル座）
（三）公家ノ寝殿ノ母屋外、廂ノ間ニ設ケタ客ノ接ニナトスル所、出居ノ座トモヲフ
御堂関白道長公御記（時代巻物）寛弘三年三月七日条内、南殿ヨリ従南
三間、西間敷高麗端畳ヲ為公卿座、坤、高欄辺敷紫端畳ヲ為出居
（俗語考ヘル）△山槐記、治承三年十月八日「於出居」風炉被焼」明月記、建久
七年五月廿五日、陰雨大風「堂上ノ出居座、庭中似海、仍出居座畳引上、長
押上ヲ」（三）武家ニハ客殿、対面所ノ如キモノ
吾妻鏡、建仁三年五月二日条
（四）民家ニ客ノ間、義経記ニ「我ガ身出居部アリテ燈芯二所ニ立テ」

（出居）
△「いでゝオヽスベシ」

いづみりう「泉流」狂言ノ一派、其俳ノ見ヲ
いて屋（一）話ヒタル時、呼ビ立ル時ニ発セラル語
一方ニハ、「伊田イカニ、ネヱヒコロモ トコロウたマデ思フ恋ヲスル故」一方ニハ三十九ノ
五ヲカ駒、早ク行キヨ」「其琴ノ音ヲ弾キタマヘ」
四老僧ニ「ヒ時撥ノ音ヲ」
「こゞ行カム」いで物見ヤム」「音ネテキヲフ空捨掛上、上△
（二）物言ヲ云フ叫ビ発スル語 名茶紀ノ「歴ヒ其薄一書百
歴ヒ此云異捉」（茂一本ノ性（ヨ）「伊倫児歟」
一方ニハ「乞角ヒ来テ」古今ノ恋一「いで我ヲ人ナ咎メソ」
（三）イヤモウ（イヤドウモ）「秋草ヲ四ノ「いでマコトニウレシキ
事ノ昨夜待リシヲ」源横笛ノ「いでイカデハアルベキ事ゾ」後拾遺ノ恋二

「有馬山イナノ笹原風吹ケバいでそよ人ニ忘レヤスル」

いでそよ（四）ハいで（三）ノ意

イデ夫ヨ、後拾遺ノ歌ニ「有馬山イナノ笹原風吹ケバいでそよ人ニ忘レヤスル」

いで（感）出づる意

いでたつ　自四　出立ツ　敬語　出御サル　推古紀二十年正月「長ガ大君ノ隈

リマス　天ノ八十薩（御殿）異況多多夜（ミツラ）浮空ヲ見レバ」（カナヒノ…「母況多多ム力ハ無トコヨリ居ラ」）

いでたつ　自四　出立ツ（三）出デ始ムアルキダス　古今序「遠キ所モいでたつ足モトヨリ始メテ」（三）走ル所ニ出テ、行ク、発ル　居ル

「難波ノ崎ヨ伊待多智ラ我ガ國見レバ」（三）世ニ成リ出ヅ、出世ス、空穂、徒上、

下「今ノ世ニいでたちマウサバ物シツベキヲ」（四）装ス身支度ヲス、拵ヘル　禁書

いと　絲（糸ノ字ヲ訓ハ絲ノ字ノ省字ナリ）

（二）繭、麻、木綿、毛ナドニテ細ク長ク接リ作ルモノ、万二十ノ…「我妹子ガ

シヌビニセヨト附ケシ紐、伊力ニカ解カムトヨ」和名抄十四ノ六「絲伊度、

蚕所吐也」

（三）弾琴、琴ニ味線ナドニ張リテ弾キ鳴ラシテ音ヲ出サシムルモノ、生絲ニテ

楽器

撚リ作ル絃

（三）直ニ其楽器ニ用ヒル「絲竹」絲ヲ云ベ

（四）三味線ノ音、「唄ニトガハイル」其音ノ妙ヲ云ハンニ「ことと」ドト云フ絃聲

（五）絹絲ノ翼「絲織」絲入

（六）釣絲、釣糸「絲ヲ垂ル」

(七)スベテ甚ダ細ク長キモノ　紫式部日記「菅原孝標ノ女ノ、物語ニ心ヒカレテ、絹ノ中ニ入レテ」　枕ノ草子「斬ノ糸ニ水ヲ」ト引用

いとなむ　他四　(眠無シノ訛ノ活用ス)　隙ナシ　勤ム意　はかる

はかなし　たしなし(用意)ヲたしなむ(所習)ト共ニ用ル

(二)務メテ為ス、ゴウシテモ、イソシム　イトナブ

欽明紀「夜ヲ徹シ勤修庶務」

(三)作リ調フ、経営ス　字鏡「營、豆久利以止奈ム牛」

(雲英訳平ノ物語「營造ス」)

源、若紫四十四「心ヒキ孔ヒキテ物縫ヒ、ものむ、ナド著レバ」

(三)イソグ、支度ス、用意ス、準備　紅梅百首「川松ヲ、とりみ豆ツル、いそナドニ春明方

ト夜ヤナリヌラム」

森むらや製